

京セラ COMMAND CENTER

操作手順書



ご使用になる前に

本書の内容の一部または全部を無断転載することは固くお断りします。本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

本製品を使用したことによって生じた損害賠償などに関しては、当社では一切その責任を負いかねますので、ご了承ください。

本アプリケーションソフトは、プリンタや複合機（以降、本書ではプリントシステムと表記）の機種の違い、またはカラー機やモノクロ機の違いにより、画面に表示される項目や初期設定値、設定できる内容が異なります。

本書では、Windows XP、Internet Explorer 6.0 環境での操作を例に説明しています。

商標について

KYOCERA、京セラ、KYOCERA MITA、京セラミタ、ECOSYS、エコシス、PRESCRIBE、およびプリスクライブは、京セラ株式会社の登録商標です。KPDFL、および KIR（Kyocera Image Refinement）は、京セラ株式会社の商標です。

Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の登録商標です。

Apple、AppleTalk、Mac、Macintosh、Mac OS、および TrueType は、Apple Computer, Inc. の登録商標です。Bonjour は、Apple Computer, Inc. の商標です。Adobe、Acrobat、および PostScript は、Adobe Systems Incorporated の登録商標です。

Novell、および NetWare は、Novell, Inc. の登録商標です。

HP、および PCL は、Hewlett-Packard Company の登録商標です。

Intel、Pentium、および Celeron は、Intel Corporation の登録商標です。

その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

目次

1 はじめに	1
COMMAND CENTER とは.....	1
動作環境	1
2 アクセス制限	2
アクセス手順.....	2
管理者パスワード.....	2
認証	2
暗号	2
3 COMMAND CENTER のページ	3
スタートページ	3
基本ページ	7
プリンタページ	17
スキャナページ	19
ファクス /i- ファクスページ	22
ジョブページ.....	33
文書ボックス.....	34
詳細ページ	37
4 トラブルシューティング	57

1 はじめに

COMMAND CENTER とは

京セラ COMMAND CENTER（以下、COMMAND CENTER）は、PC から Web ブラウザを使用してアクセスし、プリントシステムの設定や管理を行うツールです。本機の状態や設定内容の確認、ネットワークやセキュリティの設定変更などができます。

動作環境

COMMAND CENTER は次の環境で動作します。使用する前に確認してください。

プロトコル

- TCP/IP プロトコルが PC にインストールされている。
- プリントシステムに IP アドレスが設定されている。

Web ブラウザ

- Microsoft Internet Explorer 6.0 以降 *1
 - Mozilla Firefox 1.5 以降
 - Safari 2.0 以降 *2
- *1: Microsoft Internet Explorer は、Microsoft Windows 98SE/Me/2000/XP/Vista、Microsoft Windows NT 4.0 で動作します。
- *2: Safari は Apple Macintosh OS X 10.4 以降で動作します。

2 アクセス制限

アクセス手順

1. Web ブラウザを起動します。
2. アドレス欄に、アクセスしたいプリントシステムの IP アドレスを入力します。

例：http://192.168.10.150/

ページ上部にあるタブでページを切り替え、左側のナビゲーションバーからカテゴリを選択します。

管理者パスワード

管理者パスワードを設定すると、スタートページ以外への一般ユーザのアクセスを制限できます。セキュリティを確保するために、管理者パスワードの設定をお勧めします。なお、機種によっては、工場出荷時にデフォルトの**管理者パスワード** (admin00) が設定されています。

管理者パスワードを設定すると、画面左上に**ログイン**ボタンが表示されます。スタートページ以外にアクセスする場合は、**ログイン**ボタンをクリックしてください（機種によっては**ログイン**ボタンが表示されません。その場合は、**スタートページ以外**のページをクリックしてください。）。パスワードの入力画面が表示されます。あらかじめ設定した**管理者パスワード**を入力すると、全ページへのアクセスが可能になります。

管理者パスワードの設定については、12 ページの**基本 > セキュリティ > パスワード設定**を参照してください。

認証

認証の設定をすると、あらかじめ設定したユーザのみにアクセスを許可することができます。さらに、ユーザごとに**一般ユーザ**か**管理者**のどちらかの権限を与えて区別できます。認証機能を使用するには、あらかじめアクセス可能なユーザを設定する必要があります。ユーザの設定方法は、14 ページの**基本 > セキュリティ > ユーザ管理**を参照してください。

認証を設定してアクセスすると、**スタートページ**のみ表示されるようになります。さらに、画面左上に**ログイン**ボタンが表示されますので、それをクリックしてログインします。**管理者**アカウントでログインすると、隠れていたページが表示され、すべてのページにアクセスできるようになります。**一般ユーザ**アカウントでログインすると、**基本**ページの自分の設定内容画面と、自分の文書ボックスと共有の文書ボックスのページにアクセスができるようになります。

さらに、認証には**ローカル認証**と**ネットワーク認証**の2種類があります。詳細は、48 ページの**詳細 > 管理 > 認証 > 基本**を参照してください。

暗号

SSL 暗号を使って、PC と本体との通信を暗号化することができます。それにより、アクセスする際の URL の指定で、「https://…」と指定する必要があります。詳しい設定方法は、52 ページの**詳細 > セキュリティ > セキュアプロトコル**を参照してください。

3 COMMAND CENTER のページ

COMMAND CENTER は、次のページに分かれています。ページ上部のタブをクリックすると、各ページへジャンプできます。各ページの概要は次のとおりです。

ページ名	説明
スタート	本機の動作状態と現在の設定が確認できます。
基本	デバイスの初期設定、セキュリティ、基本的なネットワーク設定など、本機全体に適用される設定を行います。
プリンタ	デフォルト印刷解像度、印刷部数など、本機の印刷機能に適用される設定を行います。
スキャナ	デフォルトスキャン解像度、原稿の向きなど、スキャナ機能に適用される設定を行います。
ファクス/i-ファクス	ファクス送信および受信の設定など、ファクス機能に適用される設定が含まれます。
ジョブ	ジョブの状態、スケジュールジョブ、ジョブ履歴を含む、すべてのデバイスのジョブに関する情報が表示されます。
文書ボックス	文書ボックスの追加や削除、文書ボックス内の文書の削除などを行います。
詳細	本機全体に適用される詳細設定、主にネットワークの詳細設定を行います。

スタートページ

スタートページでは、次の操作ができます。

- プリントシステムの動作状態の確認
- 管理者パスワード設定時のログイン/ログアウト
- COMMAND CENTER の表示言語の変更
- 各種設定（本体、印刷、スキャン、ファクス、ネットワーク、メール）の確認
- スキャンページ数および印刷枚数の確認
- リンクページへのアクセス

すべてのユーザがスタートページにアクセスできます。

スタート > スタート

COMMAND CENTER を起動すると最初に表示される画面です。本機の動作状態が確認できます。

項目	説明
言語	COMMAND CENTER のページが、複数の言語に対応している場合に表示されます。 COMMAND CENTER の言語を変更するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語ドロップダウンリストをクリックして、開きます。 2. 適切な言語を選択します。 本機の操作パネルで使用されている言語と異なる言語を選択して COMMAND CENTER を表示すると、一部の文字が正しく表示されない場合があります。
操作パネル	本機の動作状態が表示されます。最新の状態を表示させるには、 更新 ボタンをクリックします。
トナー残量	トナーのおおよその残量が表示されます。指定外のトナーを使用している場合は表示されません。
ネットワーク IP 情報	本機のネットワーク IP 情報が表示されます。表示される情報は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - IPv4 アドレス - IPv6 アドレス (Manual) - IPv6 アドレス (LinkLocal) - IPv6 アドレス 1~5 (Stateless) - IPv6 アドレス (Stateful) - ホスト名
識別情報	本機のシステム情報が表示されます。表示される情報は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - MAC アドレス - システムファームウェア - エンジンファームウェア - パネルファームウェア - ファクスファームウェア - シリアル番号 - 固定資産番号
給紙情報	各用紙カセットと手差しトレイにセットされている用紙のサイズ、種類、容量、残量が表示されます。

スタート > ステータスページ

操作パネルまたは COMMAND CENTER を使用して設定した内容が確認できます。表示は次の項目に分かれています。

- ネットワーク
- セキュリティ
- デバイス / プリンタ
- スキャナ
- ファクス / i- ファクス
- ジョブ
- カウンタ

項目	説明
ネットワーク > 基本	LDAP、TCP/IP、IPP、IPP over SSL、AppleTalk、NetBEUI、IPv4、IPv6 の設定内容が確認できます。詳細は、37 ページの 詳細ページ を参照してください。
ネットワーク > IP フィルタ	詳細ページの IP フィルタ (IPv4) や IP フィルタ (IPv6) ページで設定した、アクセス許可を持つ IP アドレスとサブネットマスク (IPv4)/プレフィックス長 (IPv6) のリストが表示されます。設定されていない場合は、すべてのアドレスにアクセス権限が与えられます。詳細は、39 ページの 詳細 > プロトコル > TCP/IP > IP フィルタ を参照してください。
ネットワーク > SNMP	詳細ページの SNMPv1/v2 や SNMPv3 で設定した内容が確認できます。SNMPv1/v2 については、46 ページの 詳細 > 管理 > SNMP > SNMPv1/v2c を参照してください。SNMPv3 については、47 ページの 詳細 > 管理 > SNMP > SNMPv3 を参照してください。
ネットワーク > POP3/SMTP	詳細ページの POP3 と SMTP で設定した、メール関連の項目が確認できます。POP3 については、44 ページの 詳細 > メール > POP3 > 基本 を参照してください。SMTP については、42 ページの 詳細 > メール > SMTP > 基本 を参照してください。
ネットワーク > ロジカルプリンタ	詳細ページのロジカルプリンタで設定した内容が確認できます。詳細は、40 ページの 詳細 > プロトコル > TCP/IP > ロジカルプリンタ を参照してください。
ネットワーク > NetWare	現在の設定内容が確認できます。詳細は、40 ページの 詳細 > プロトコル > NetWare を参照してください。
セキュリティ	セキュアプロトコル、IEEE802.1x および IPSec の、現在の設定内容が確認できます。これらの設定を変更する場合は、セキュアプロトコルについては 52 ページの 詳細 > セキュリティ > セキュアプロトコル 、IEEE802.1x については、53 ページの 詳細 > セキュリティ > IEEE802.1x 、IPSec については 54 ページの 詳細 > セキュリティ > IPSec > 基本 を参照してください。
デバイス/プリンタ	基本ページとプリンタページで設定した内容が確認できます。詳細は、7 ページの 基本ページ および 17 ページの プリンタページ を参照してください。
デバイス/プリンタ > アプリフィルタ	プリンタページで設定した内容が確認できます。詳細は、17 ページの プリンタページ を参照してください。

項目	説明
デバイス/プリンタ > アプリフィルタ個別パラメータ	プリンタページで設定した内容が確認できます。詳細は、17 ページのプリンタページを参照してください。
スキャナ	スキャナページで設定した内容が確認できます。詳細は、19 ページのスキャナページを参照してください。
ファクス/i-ファクス > 基本	ファクス/i-ファクスページで設定した内容が確認できます。詳細は、22 ページのファクス/i-ファクスページを参照してください。
ファクス/i-ファクス > ファクス	
ファクス/i-ファクス > i-ファクス	
ジョブ > 印刷ジョブ履歴	それぞれの操作のジョブ履歴が確認できます。詳細は、33 ページのジョブページを参照してください。
ジョブ > 送信ジョブ履歴	
ジョブ > 保存ジョブ履歴	
カウンタ > 印刷ページ数	現在までの印刷ページ数を、用紙サイズや色ごと（白黒、単色カラー、フルカラー）に確認できます。両面印刷や A3、Ledger サイズより大きな用紙は、2 ページとしてカウントされます。
カウンタ > 読み込みページ数	現在までの読み込みページ数を、コピー、ファクス、その他（スキャン）の、機能ごとに表示します。

スタート > 情報

アドレス帳、ユーザアカウント、本機のモデル名、ファームウェアのバージョンに関する情報が確認できます。

項目	説明
アドレス帳	個人アドレス帳とグループアドレス帳の、最大登録件数と、現在の登録件数を表示します。詳細は、10 ページの基本 > 初期設定 > アドレス帳 > 個人アドレスおよび、11 ページの基本 > 初期設定 > アドレス帳 > グループアドレスを参照してください。
ユーザ管理	登録されているユーザ数が表示されます。詳細は、14 ページの基本 > セキュリティ > ユーザ管理を参照してください。
バージョン情報	本機のモデル名とファームウェアのバージョン、サポートされているブラウザが確認できます。

スタート > リンク

弊社の米国 Web サイトへ接続します。国内の Web サイトへアクセスして、詳細な情報とドライバのダウンロードをするには次の表を参照してください。

項目	国内の Web サイト
ドライバのダウンロード	http://www.kyoceramita.co.jp/download/index.html
Kyocera Web サイト	http://www.kyoceramita.co.jp/

基本ページ

このページでは、本機の初期設定、ネットワーク、セキュリティ設定など、本機全体に関する設定を行います。

基本 > 初期設定 > ネットワーク

このページでは、ネットワーク印刷とメール送信に必要な設定ができます。詳細は、37 ページの [詳細 > プロトコル > TCP/IP > 基本](#) を参照してください。

このページで設定を変更した場合は、設定の内容を正しく登録するために、本機を再起動する必要があります。9 ページの [基本 > 初期設定 > リセット](#) を参照してください。

項目	説明
ホスト名	本機の名前を指定します。この名前は、NetBEUI プリント名および WSD 機器名としても使用されます。
LAN インタフェース	通信速度を、自動、10BASE-T-Half、10BASE-T-Full、100BASE-TX-Half、100BASE-TX-Full から設定します。設定後は本体を再起動する必要があります。再起動方法は、9 ページの 基本 > 初期設定 > リセット を参照してください。
IPv4 設定 DHCP/BOOTP	DHCP または BOOTP を使って、IP アドレスを自動取得するかどうかを指定します。
IP アドレス (IPv4)	本機に IPv4 のアドレスを割り当てます。IPv4 アドレスのフォーマットは、ドットで区切られた 32 ビットの数字です。(例) 192.168.110.171。
サブネットマスク	接続するホスト、もしくはネットワークのサブネットマスクを入力してください。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
IPv6 設定 IPv6	IPv6 プロトコルを有効にするかどうかを設定します。IPv6 プロトコル使用時はオンにしてください。

項目	説明
IP アドレス (IPv6)	本機に IPv6 のアドレスを割り当てます。IPv6 アドレスのフォーマットは、コロンで区切られた 128 ビットの数字です。 (例) 2001:db8:3c4d:15::1a2c:1a1f
プレフィックス長	接続するホスト、もしくはネットワークのプレフィックス長を入力してください。
RA (Stateless)	RA によって IPv6 アドレスを設定する場合にオンにします。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IPv6 アドレスを指定します。
DHCPv6	自動設定を使って、IPv6 の IP アドレスを自動取得するかどうかを指定します。RA がオンの場合は、RA (ルータ設定) の自動設定の設定にしたがい、DHCPv6 による IP アドレスとサーバ情報の取得を行います。

基本 > 初期設定 > 時刻設定

ネットワーク上の時刻サーバを利用して時刻を取得すると、定期的に、簡単に時刻が設定できます。時刻サーバの IP アドレスを入力して、**同期**ボタンをクリックします。

時刻は、各種レポートを本機からメールで受け取る場合に必要になりますので、レポートメールの設定を行っている場合は、時刻を設定することをお勧めします。

項目	説明
現在の時刻	現在設定されている時刻を表示します。
標準時 (UTC/GMT)	現在設定されているグリニッジ標準時を表示します。
タイムゾーン	標準時からの時差を設定します。ドロップダウンリストをクリックして、地域を選択します。
夏時間	夏時間を適用するかどうかを設定します。時刻を時刻サーバから取得するとき、夏時間を適用する場合は、 オン を選択します。
時刻サーバ	時刻を取得する時刻サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
時刻サーバと同期	時刻サーバに時刻サーバの IP アドレスを入力して 設定 ボタンを押すと、 同期 ボタンがクリック可能な状態になります。 同期 ボタンをクリックすると、時刻サーバに接続し、正しい時刻に更新します。
同期結果	同期 ボタンをクリックして行った、時刻サーバとの同期操作の結果を表示します。

基本 > 初期設定 > リセット

行った設定を有効にするために、本機の再起動が必要な場合があります。また、すべての設定を工場出荷時の設定に戻すこともできます。

項目	説明
デバイスの再起動	再起動ボタンをクリックすると、本機が再起動します。
ネットワークの再起動	再起動ボタンをクリックすると、本機を再起動することなく、ネットワークインタフェースのみ再起動します。 ネットワークの設定を変更した際は、ネットワークインタフェースを再起動する必要があります。
デバイスを工場出荷時の設定に戻す	リセットボタンをクリックすると、本機は工場出荷時の設定値に戻ります。ただし、文書ボックスやアドレス帳、ユーザ情報、履歴、証明書は削除されずに残ります。

基本 > 初期設定 > デバイスの初期設定

操作パネルで表示される言語の変更や、オートスリープモードの設定が行えます。

項目	説明
操作パネル表示言語	表示メッセージの言語を選択できます。ドロップダウンリストで選択可能な言語は次のとおりです。 英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、オランダ語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、およびダウンロードされた言語。 オプションとして、ほかの言語のメッセージをダウンロードできます。詳しくは、販売店にお問合せください。 設定後、機種によっては再起動が必要な場合があります。
オートスリープ待ち時間	スリープ状態になるまでの時間を 1 ～ 240 分の間で調整します。 オートスリープは、次の手順でオンまたはオフにします。初期設定はオンです。 1. ドロップダウンリストの右側にある詳細をクリックします 2. スリープモードのオンまたはオフを切り替えます 3. 設定をクリックします
A4/Letter 共通	A4 サイズと Letter サイズの用紙を、区別しないで給紙するかを設定します。 オンにすると、例えば A4 サイズを指定して印刷した場合でも、A4 サイズの用紙がないと Letter サイズの用紙で印刷します。 オフにすると、A4 サイズを指定して印刷した場合に Letter サイズの用紙があっても、A4 サイズの用紙がなければ用紙切れとなります。
オートエラークリア	エラー発生時に、自動的にエラーをクリアするかどうかを設定します。

項目	説明
エラークリア時間	自動的にエラーをクリアするまでの時間を 5 ～ 495 秒の間で指定します。
低電力時間	消費電力を低減する低電力モードになるまでの時間を、1 ～ 240 分の間で調整します。
RAM ディスクモード	RAM ディスクはプリントシステムの総メモリの中から、任意のメモリサイズを RAM ディスクとして設定できます。オンにすることにより電子ソートが可能になり、印刷時間を短縮できます。設定後は本体を再起動する必要があります。
RAM ディスクサイズ	RAM ディスクのサイズを設定できます。設定できるサイズは、プリントシステムの使用説明書を参照してください。設定後は本体を再起動する必要があります。
割り込み解除時間	割り込みコピーモードにして何も操作しないとき、通常モードに戻るまでの時間を設定します。範囲は 5 ～ 459 秒（5 秒単位）です。
WSD スキャン時間	WSD スキャンモードにしてなにも操作しないとき、通常画面に戻るまでの時間を設定します。範囲は 10 ～ 495 秒です。
ファイル名	スキャンしたデータのファイル名や、ジョブページで確認できるジョブ状況やジョブ履歴のジョブ名を設定します。
付加情報	上記で設定したファイル名に、ジョブ番号や日付/時間などを追加します。付加できる情報は、機種によって異なります。
使用禁止時間設定	本機の使用できる時間を制限します。オンにすると、下の使用禁止時間で設定した時間中の操作はできません。ただし FAX の受信は蓄積され、使用禁止時間後に出力されます。
使用禁止時間	本機の使用を制限する時間帯を設定します。使用禁止時間設定がオンのときに設定します。
解除コード	上記で設定した使用禁止時間中に、一時的に使用禁止を解除できるコードを、0 から 9 の 4 桁の数字で設定します。
送信前の宛先確認	送信する際、本体のスタートキーを押した後に、宛先確認画面を表示するかどうかを設定します。
新規宛先の入力確認	宛先を新規に入力する際に、確認のために再入力が必要とするかどうかを設定します。

基本 > 初期設定 > アドレス帳 > 個人アドレス

このページでは、アドレス帳にアドレスを追加、編集または削除できます。

新しいアドレスの追加

1. 個人アドレス帳ページを開きます。

2. アドレスの追加をクリックします。個人アドレス帳 - 追加ページが開きます。
3. 登録するアドレスの情報を入力します。ファクスシステムをインストールしていない場合でも、ファクス番号やi-ファクスアドレスは指定できます。
4. 設定ボタンをクリックします。

アドレスの編集

1. 個人アドレス帳ページを開きます。
2. 編集するアドレスの番号または名前をクリックします。個人アドレス帳 - 編集ページが開きます。
3. アドレスの情報を変更します。
4. 設定ボタンをクリックします。

アドレスの削除

1. 個人アドレス帳ページを開きます。
2. 削除するアドレスにチェックを入れます。番号の左横にあるチェックボックスにチェックを入れると、ページ上のすべてのアドレスにチェックが入ります。
3. アドレスの削除をクリックします。個人アドレス帳 - 削除ページが表示され、削除するアドレスを確認できます。
4. 削除するアドレスが正しければ、削除ボタンをクリックします。

基本 > 初期設定 > アドレス帳 > グループアドレス

このページでは、グループアドレスを追加、編集または削除できます。

新しいグループの追加

1. グループアドレス帳ページを開きます。
2. グループの追加をクリックします。グループアドレス帳 - 追加ページが開きます。
3. グループの番号と名前、フリガナを入力します。
4. 設定ボタンをクリックします。グループアドレス帳 - メンバーの追加ページが開きます。
5. 作成したグループに追加するメンバーを選択します。追加したいメンバーにチェックを入れます。なお、追加するメンバーはあらかじめ登録されている必要があります。
6. 追加するメンバーを選んだら、設定ボタンをクリックします。グループアドレス帳 - 編集ページが開きます。設定ボタンをクリックします。引き続き、グループ名の変更や、メンバーの追加・削除など、グループの編集が行えます。

グループの編集

1. グループアドレス帳ページを開きます。
2. 編集するグループの番号または名前をクリックします。グループアドレス帳 - 編集ページが開きます。
3. グループの番号や名前の変更や、メンバーの追加・削除ができます。メンバーを追加するには、メンバーの追加をクリックし、追加するアドレスを選択して、設定ボタン

をクリックします。なお、追加するメンバーはあらかじめ登録されている必要があります。
メンバーを削除するには、メンバーリストから削除するメンバーを選択し、**メンバーの削除**をクリックします。

4. 削除するメンバーが正しければ、**削除ボタン**をクリックします。
5. 編集が終わったら、**設定ボタン**をクリックします。

グループの削除

1. **グループアドレス帳**ページを開きます。
2. 削除するグループにチェックを入れます。番号の左横にあるチェックボックスにチェックを入れると、ページ上のすべてのグループにチェックが入ります。
3. **グループの削除**をクリックします。**グループアドレス帳 - 削除**ページが表示され、削除するグループを確認できます。
4. 削除するグループが正しければ、**削除ボタン**をクリックします。

基本 > セキュリティ > パスワード設定

管理者アカウントは、すべてのページへのアクセスが可能です。管理者以外の一般ユーザは、**スタートページ**のみアクセス可能です。ここで設定した管理者パスワードは、**認証通信がオフ**の場合に有効です。**認証通信**については 48 ページの**詳細 > 管理 > 認証 > 基本**を参照してください。

本機およびネットワーク構成の設定内容を不正に変更されないために、**管理者パスワード**の設定をお勧めします。機種によっては、工場出荷時にデフォルトのパスワード (admin00) が設定されています。パスワードは必要に応じて変更してください。

パスワードの変更は次の手順で行います。

1. 古いパスワードを入力します。最初に設定する際は不要です。
2. 設定するパスワードを**新しいパスワード**の欄に入力します。パスワードの長さは、最大 32 文字 (機種によっては 30 文字) です。
3. **新しいパスワードの確認**欄に、同じパスワードを再度入力します。
4. **設定**をクリックします。

基本 > セキュリティ > デバイスセキュリティ > 基本

操作パネルおよび USB ホスト機器からのアクセスを制限できます。次の項目から選択します。また、セキュリティ関連の各設定についての説明が表示されます

項目	説明
操作パネルロック	操作パネルからのアクセスを制限できます。管理者権限でログインした場合は、機種によってはこの設定は無効です。 オンを選択すると、本機のシステムメニューの使用を禁止し、アドレス帳およびボックスの登録・編集を禁止します。また、ストップキーの使用を禁止し、ジョブのキャンセルを禁止します。 オン（一部）を選択すると、本機のシステムメニューの使用を禁止し、アドレス帳およびボックスの登録・編集を禁止します。 オフを選択すると、すべてのキーを使用できます。
フィルタリング / ファイアウォール、SNMPv1/v2、SNMPv3、SSL、IEEE802.1x、IPSec	セキュリティ関連の、各設定についての説明が表示されます。文中のリンクをクリックすると、詳細ページの設定画面が開きます。

基本 > セキュリティ > デバイスセキュリティ > インタフェースブロック

インタフェースごとにアクセスを制限できます。

項目	説明
ネットワーク	左記のインタフェースからのアクセスを制限するかどうかを設定します。ブロックするを選択したインタフェースからのアクセスは制限されます。
USB デバイス	
USB ホスト	ネットワークインタフェースからのアクセスは、制限できません。プロトコルごとに制限することは可能です。次項を参照してください。
パラレルインタフェース	
オプションインタフェース (1/2)	

基本 > セキュリティ > デバイスセキュリティ > ネットワークセキュリティ

本機に対する通信を、プロトコルごとに有効にするかどうかを設定できます。

項目	説明
SNMPv3、NetWare、AppleTalk、NetBEUI、Raw、IPP、IPP over SSL、HTTP、HTTPS、FTP（送信）、FTP（受信）、SMB、SNMP、SMTP、POP3、LPD、LDAP、WSD 印刷、WSD スキャン	左記のプロトコルを制限するかどうかを設定します。ブロックするを選択したプロトコルでの通信は制限されます。 ここでの設定は、詳細ページでのプロトコルの設定に連動します。

基本 > セキュリティ > ユーザ管理

48 ページの詳細 > 管理 > 認証 > 基本で、認証機能を設定した場合（機種によっては、ローカル認証に設定した場合）、ここでユーザを登録し、アクセスレベルを設定する必要があります。選択できるアクセスレベルはユーザか管理者です。なお、デフォルトで管理者アカウントが1つ登録されています。

ユーザ数には現在登録されているユーザの数が表示され、名前検索に登録名を入力すれば、名前の検索ができます。

新しいユーザの追加

1. ユーザ管理をクリックして、ユーザ管理ページを開きます。
2. 追加をクリックして、ユーザの情報を入力します。
3. 設定ボタンをクリックします。

ユーザの編集

1. ユーザ管理をクリックして、ユーザ管理ページを開きます。
2. 編集対象のログインユーザ名または名前をクリックして、ユーザ情報を編集します。
3. 設定ボタンをクリックします。

ユーザの削除

1. ユーザ管理をクリックして、ユーザ管理ページを開きます。
2. 目的のユーザにチェックを入れます。最上部のチェックボックスにチェックを入れると、そのページに表示されているすべてのユーザにチェックが入ります。
3. 削除をクリックします。ユーザ管理・削除ページが表示され、削除するユーザを確認できます。
4. 削除するユーザが正しければ、削除ボタンをクリックします。

基本 > セキュリティ > 証明書

このページでは証明書の詳細を確認、作成、更新することができます。これらの設定内容を変更した場合は、本体を再起動する必要があります。再起動方法は、9 ページの **基本 > 初期設定 > リセット** を参照してください。

デバイス証明書 - 自己発行証明書

自己発行証明書は、デフォルト状態で自動発行されています。自動発行された証明書は、国コードと一般名（機種名と同様 [KMxxxxxx]）および、約 10 年の有効期限が設定されています。

項目	説明
証明書	証明書が有効かどうか表示します。
有効期限	証明書の有効期限を表示します。
証明書の詳細	証明書を見るボタンをクリックすると、証明書の詳細を見ることができます。
証明書を作成する	作成ボタンをクリックすると、証明書を作成することができます。国コードと一般名は必須入力項目です。また、Windows Vista よりアクセスする場合は、一般名とアクセス名（ホスト名か IP アドレス）が一致している必要があります。
証明書を更新する	更新ボタンをクリックすると、証明書の有効期限を更新することができます。
証明書をエクスポートする	エクスポートボタンをクリックすると、ファイルのダウンロードダイアログが表示されます。保存ボタンをクリックすると、エクスポートされた証明書をダウンロードできます。 自己発行証明書（Self issued certificate）のみをサポートしているプリントシステムの場合、Windows Vista の IPP over SSL 機能では、自己発行証明書での暗号化通信ができません。そのため、プリントシステム側で自己発行証明書をエクスポートし、信頼された証明書とみなして Windows Vista に取り込ませることによって、IPP over SSL による印刷を行ないます。この場合も、アクセス名と証明書の一般名が一致している必要があります。

デバイス証明書 - CA 発行証明書

項目	説明
CA 証明書	認証局（Certification Authority）発行の証明書が有効かどうか表示します。
有効期限	証明書の有効期限を表示します。
証明書の詳細	詳細を見るボタンをクリックすると、証明書の詳細を見ることができます。

項目	説明
証明書のインポート	インポートボタンをクリックすると、ファイルのインポート画面になります。参照ボタンをクリックすると、ファイルの選択ダイアログが表示されます。ファイルを選択して開くボタンをクリックします。パスワード指定されている証明書の場合には、パスワード欄にパスワードを入力し、送信ボタンをクリックすると、証明書をインポートできます。
証明書の削除	削除ボタンをクリックすると、証明書が表示されます。もう一度削除ボタンをクリックすると、証明書が削除されます。 CA 発行証明書が削除されると、IPSec 設定での認証方式にて証明書を設定している場合、IPsec の設定は無効になります。SSL は自己発行証明書が有効になります。

ルート証明書

項目	説明
ルート証明書	証明書が有効かどうか表示します。
有効期限	証明書の有効期限を表示します。
証明書の詳細	証明書を見るボタンをクリックすると、証明書の詳細を見ることができます。
証明書のインポート	インポートボタンをクリックすると、ファイルのインポート画面になります。参照ボタンをクリックすると、ファイルの選択ダイアログが表示されます。ファイルを選択して開くボタンをクリックします。設定ボタンをクリックすると、証明書をインポートできます。
証明書の削除	削除ボタンをクリックすると、証明書が表示されます。もう一度削除ボタンをクリックすると証明書が削除されます。 すべてのルート証明書が削除されると、IPSec 設定での認証方式にて証明書を設定している場合、IPsec の設定は無効になります。また、IEEE802.1x はオフになります。

アプリケーション証明書

項目	説明
IEEE802.1x クライアント証明書	証明書が有効かどうか表示します。
有効期限	証明書の有効期限を表示します。
証明書の詳細	証明書を見るボタンをクリックすると、証明書の詳細を見ることができます。

項目	説明
証明書のインポート	インポートボタンをクリックすると、ファイルのインポート画面になります。参照ボタンをクリックすると、ファイルの選択ダイアログが表示されます。ファイルを選択して開くボタンをクリックします。パスワード欄にパスワードを入力し、設定ボタンをクリックすると、証明書をインポートできます。
証明書の削除	削除ボタンをクリックすると、証明書が表示されます。もう一度削除ボタンをクリックすると、証明書が削除されます。証明書が削除されると、IEEE802.1x はオフになります。

プリンタページ

このページでは、印刷解像度や印刷部数など、プリントシステムの印刷機能に関する設定を行います。

このページでの設定より、プリンタドライバの設定が優先される場合があります。

プリンタ > ネットワーク接続情報

ここでは、すでに設定されている次の情報が表示されます。

- IP アドレス
- ホスト名
- NetBEUI 名
- AppleTalk 名

プリンタ > システム

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
改ページ待ち時間	待ち時間を 5 ～ 495 秒の間で、5 秒単位で指定します。その後、データがない場合は、改ページが行われず。初期設定は 30 秒です。
エミュレーション	エミュレーションを設定します。本機が KPDLE に対応している場合は、KPDLE および AUTO が選択できます。
代替エミュレーション	エミュレーションで AUTO を設定した場合、KPDLE 以外のデータを受信したときにどのエミュレーションで処理するかを指定します。
JPEG/TIFF 印刷方法	USB メモリから、JPEG ファイルを印刷するときの画像サイズを設定します。用紙サイズに合わせる、画像解像度のまま、印刷解像度に合わせる から選択できます。
XPS 印刷範囲設定	XPS データを印刷するときの、印刷サイズを設定します。オンに設定すると、用紙サイズに合わせて印刷します。オフに設定すると、元のデータのまま印刷します。

項目	説明
給紙指定動作	給紙元と用紙のサイズと種類を指定して、印刷を行う場合の給紙動作を選択します。 自動 の場合は、指定した給紙元に指定の用紙がない場合、他の給紙元を検索して印刷を行います。 固定 の場合は、指定した給紙元に用紙があれば、指定の用紙に関わらず印刷を行います。
両面印刷モード *1	両面印刷のモードを オフ 、 長辺 、 短辺 から選択します。
部数	印刷部数を設定します。
印刷の向き	印刷方向を 縦 、 横 から選択します。
階調 *2	印刷品質を、 標準 または 高画質 から選択します。
光沢モード *2*4	光沢モードを、 高 または 低 から選択します。
カラーモード *2	カラーモードを、 白黒 または フルカラー から選択します。
KIR *3	KIR（京セライメージリファインメント）スムージング機能を使用するかどうかを設定します。使用する場合は オン を選択します。
エコプリント *3	トナー使用量を抑えて、印刷コストを低減する エコプリント 機能を使用するかどうかを設定します。使用する場合は オン を選択します。初期設定は オフ です。
解像度 *3	印刷解像度を 300dpi、600dpi、Fast1200、Fine1200 から選択します。

*1：両面印刷に対応した機種のみ表示されます。

*2：一部のカラー機のみ表示されます。

*3：モノクロ機と一部のカラー機に表示されます。

*4：光沢モードに対応した機種のみ表示されます。

プリンタ > システム > アプリフィルタ

ここでは、アプリフィルタの設定を行います。アプリフィルタとは、送られてきたプリントデータを指定したコードで変換して印刷する機能です。

項目	説明
フィルタ設定	アプリフィルタを設定するかどうか指定します。
フィルタ名	設定するアプリフィルタを選択します。EUC から Shift-JIS への変換処理が選択可能です。本機が KPDL に対応している場合は、ASCII から KPDL への変換処理も選択できます。

プリンタ > システム > アプリフィルタ個別パラメータ

アプリフィルタごとの設定を行います。フォントや変換対象範囲を指定できます。

項目	説明
フォント	印刷するフォントを指定します。
開始文字列	変換処理を行う対象箇所の最初の文字列を指定します。入力可能な文字数は、半角で 15 文字です。
終了文字列	変換処理を行う対象箇所の最後の文字列を指定します。デフォルトは ㍻ です。入力可能な文字数は、半角で 15 文字です。

プリンタ > 給紙設定

各給紙元用の用紙サイズと用紙種類、およびカセットのグループ化を設定できます。

項目	説明
デフォルト	標準の給紙元を設定します。
給紙	使用可能な給紙元が表示されます。オプションで設定されている給紙元も表示されます。
用紙サイズ	給紙元ごとに用紙サイズが表示されます。ドロップダウンリストから選択して設定できます。
用紙種類	給紙元ごとに、現在設定されている用紙種類が表示されます。ドロップダウンリストから選択して変更できます。
グループ化設定	複数のカセットが使用できる場合に、選択したカセットを一つの給紙元とするグループを 3 つまで設定できます。グループ化したカセット間は、連続して給紙が可能になります。

プリンタ > 排紙情報

標準の排紙先を設定できます。

項目	説明
排紙先	標準の排紙先を設定します。

スキャナページ

このページでは、スキャン解像度や原稿の向きなど、プリントシステムのスキャナ機能に関する設定を行います。

スキャンしたデータファイルをメールに添付して送信するためには、SMTP 設定が完了している必要があります。設定方法は、42 ページの [詳細 > メール > SMTP > 基本](#) を参照してください。

スキャナ > 初期設定

スキャン時の初期値を設定します。このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
カラー選択 (コピー)	コピー時のカラーモードを選択します。自動を選択すると、原稿を自動的に識別して読み込みます。カラーモードを固定して読み取りたい場合は、フルカラーや白黒を指定します。
カラー選択 (送信 / 保存)	送信 / 保存時のカラーモードを選択します。自動カラー (カラー / グレー) や自動カラー (カラー / 白黒) を選択すると、原稿を自動的に識別して読み込みます。カラーモードを固定して読み込みたい場合、またはモノクロ機の場合は、読み込む原稿の種類に応じて、フルカラー、グレースケール、白黒を指定します。
濃度	原稿の読み込み濃度を調整します。自動は、原稿に応じた最適な濃度で読み込みます。手動では、本体に設定されている手動濃度の設定値で読み込みます。
スキャン解像度	機種および、カラーモードやファイル形式によって、設定できる解像度は異なります。また、400dpi 以上の解像度でスキャンするには、機種によっては内部メモリの拡張が必要です。
原稿の画質	スキャンする原稿のタイプに応じて、原稿の画質を選択します。
ファイル形式	スキャンしたデータを保存するファイル形式を選択します。
PDF/TIFF/JPEG 画質	スキャンしたデータの画質を、1 (低) ~ 5 (高) から選択します。
高圧縮 PDF 画質	PDF の圧縮率を 1 (低)、2 (中)、3 (高) から選択します。機種によっては PDF 拡張キットが必要です。
高圧縮 PDF 自動カラー	原稿をスキャンする際、カラー / モノクロを自動的に判断するかどうかを設定します。機種によっては PDF 拡張キットが必要です。
自動カラー判別基準	高圧縮 PDF 自動カラーをオンにした場合、判断基準を 5 段階で設定します。1 はカラーより、5 はモノクロよりに判断します。機種によっては PDF 拡張キットが必要です。
縮小 / 拡大	縮小または拡大の割合を自動、100% から選択します。
原稿セット向き	原稿の用紙の向きを、上辺を奥向き、上辺を左向きから選択します。

スキャナ > FTP

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
FTP	FTP 機能を使用するかどうかを設定します。使用する場合は オン を選択します。
FTP ポート番号	FTP が使用するポート番号を入力します。通常は 21 を使用します。
FTP 暗号送信	暗号通信を使用するかどうかを設定します。 オン にすると、52 ページの 詳細 > セキュリティ > セキュアプロトコルの、クライアント機能時の設定 で選択されたアルゴリズムで通信を行います。

スキャナ > SMB

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
SMB	SMB プロトコルを使用するかどうかを設定します。使用する場合は オン を選択します。
SMB ポート番号	SMB がデフォルトで使用するポート番号を入力します。通常は 139 を使用します。Windows Vista の PC から使用する場合は、445 に変更してください。

スキャナ > メール

スキャンしたデータをメールに添付して送信することができます。その際のメールの件名や本文の内容を設定します。このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
件名	件名に表示する情報を指定します。次の % で始まる変数を入力すると、本機に設定されている各情報の値に変換され、件名に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> - %printer = モデル名 - %serial = シリアル番号 - %etheraddr = MAC アドレス - %host = ホスト名 - %ip = IP アドレス
本文	メールの本文に表示する情報を入力します。

スキャナ > i-ファクス

スキャンしたデータを i-ファクスで送信することができます。その際の i-ファクスの件名や本文の内容を設定します。このページで表示される項目は、上記の**スキャナ > メール**と同じです。

ファクス/i-ファクスページ

このページでは、ファクス送信や受信の設定など、プリントシステムのファクス機能に関する設定を行います。なお、i-ファクスをサポートしていない機種では、メニューの表示はファクスになります。

ファクス/i-ファクス > 共通 > 初期設定

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
自局名称	ファクスシステム名を指定します。
フリガナ	ファクスシステム名のフリガナを指定します。

ファクス/i-ファクス > 共通 > 送信

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
発信元記録	先方に TTI (Transmit Terminal Identifier) 情報を送信するかどうかを設定します。
発信元記録位置	送信ドキュメントに付加する TTI の位置を選択します。

ファクス/i-ファクス > 共通 > 受信

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
ファクス用紙種類	受信したドキュメントを印刷する用紙の種類を設定します。
MP トレイを使用する	受信したドキュメントを印刷する際、自動用紙選択の対象に MP (手差し) トレイを含むかどうかを選択します。 オンにすると、MP トレイを自動選択の対象とし、オフにすると給紙カセットのみを対象とします。
縮小受信	セットされている用紙サイズより受信原稿サイズの方が大きい場合の印刷方法を選択します。 等倍優先を選択すると、受信した原稿と同サイズで複数枚の用紙に印刷します。 縮小優先を選択すると、可能な限り 1 枚の用紙に収まるよう縮小して印刷します。
受信日時記録	受信日、受信時間、送信者の情報、送信されたページ数などの情報を、受信ドキュメントに印刷するかどうかを設定します。
両面印刷	受信原稿を両面印刷するかどうかを設定します。

項目	説明
2in1 受信	受信原稿の2ページ分を、1ページに集約して印刷するかどうかを設定します。
受信一括印刷	受信後の印刷動作を設定します。オンにすると、すべてのページを受信してから、一括で印刷を行います。オフにすると、1ページ受信するごとに印刷を行います。

ファクス/i-ファクス > 共通 > 条件付き受信 / 転送

条件付き受信 / 転送とは、届いたファクスまたはi-ファクスがある条件に合致した場合、自動でほかのファクスへ転送したり、メールに添付して送信したり、印刷せずにファクスボックスへ保存したりする機能です。

例えば、営業時間内にある特定の顧客から届いたファクスはその顧客担当のメールアドレスに転送したり、営業時間外は紙に印刷すると同時にファクスボックスへ保存、さらには県外から届いたファクスはその番号に最も近い営業所のファクスへ転送する、といったことが可能になります。

なお、条件付き受信 / 転送機能をサポートしていない機種では、受信したドキュメントはすべて同じ処理で転送を行います。

条件付き受信 / 転送の種類

ファクス/i-ファクス > 共通 > 条件付き受信 / 転送 > 基本ページを開きます。まず、次の項目からいずれかを選択します。

項目	説明
オフ	転送処理を行いません。届いたファクスは通常どおり紙に印刷されます。
条件リストを使用する	あらかじめ設定した条件ごとに転送処理を行います。設定方法は、23ページの条件リストを使用して転送処理を行う設定を参照してください。
すべて	条件を指定せず、転送処理を行います。つまり、届いたファクスはすべて1つのパターンで同じように処理されます。ただし、ファクスボックスへ保存する処理は設定できません。詳細をクリックすると、すべてを選択したときの動作を設定します。設定方法は、26ページの条件リストを使用しないですべて同一の転送処理を行う設定を参照してください。

条件リストを使用して転送処理を行う設定

ファクス/i-ファクス > 条件付き受信 / 転送 > 条件リストページを開きます。

1. 条件リストに新たな条件を追加します。追加をクリックします。

2. 条件リスト・追加ページが表示されます。ここで、転送処理を行うファクスの条件を指定します。

項目	説明
条件番号	ユーザが管理する転送条件の ID を入力します。
名前	ここで設定する条件にわかりやすい名前を付けます。
状況	この条件を使用するかどうかを指定します。新規で条件を追加するときは、 オフ に設定されています。 オン にするには、一度条件を決定し、 条件リスト から オン にしたい条件をクリックして設定を変更します。 条件有効時間設定 、 条件有効時間 、および Fコードサブアドレス の項目が、同じ設定の転送条件は、複数と同時に オン にできません。
条件有効時間設定	転送処理を行う時間帯を指定します。限られた時間内に届いたファクスのみ転送処理を行う場合は 時刻指定 を、時間を指定しない場合は、 終日 を選択します。
条件有効時間	前項目で時刻指定を選択した場合、その開始時刻と終了時刻を指定します。
ファイル名	転送処理を行う際に付けるファイル名を指定します。
付加情報	前項目で指定したファイル名に付加する情報を指定します。
送信元情報の付加	設定した付加情報を、ファイル名の前か後ろかどちらにつけるか、または付加しないかを指定します。
検索優先順位	転送条件を検索するときの優先順位を設定します。
条件の形式	<p>条件の種類を次から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ファクスFコード サブアドレス - ファクス番号 - ファクスダイヤルイン - ファクス受信ポート - i-ファクスアドレス <p>選択すると、その下のテキストボックスが、選択された項目に連動して必要な情報を入力できるようになります。</p> <p>また、入力には「*」を使ったワイルドカードが使用できます。例えば、東京から届いたファクスすべてを指定するには、ファクス番号を選択し、ファクス番号テキストボックスに「03*」と入力します。</p> <p>ファクス番号やi-ファクスアドレスを選択した際に、検索条件が表示される機種では、完全一致、前方一致など検索条件を選択します。この場合、上記のワイルドカードを使用した検索は行えません。</p> <p>また、検索条件が完全一致以外の条件を選択した場合、宛先をファクスボックスに設定できるのは9件までです。</p> <p>ファクス受信ポートを選択するとリストボックスが表示され、ポート 1/ポート 2を選択できます。</p> <p>条件の形式でファクスFコード サブアドレスを選択した場合は、Fコードサブアドレスを入力します。</p>

3. すべての項目の指定が終わったら、**設定**ボタンをクリックします。
4. **条件リスト**ページが表示されます。**条件リスト**に今設定した条件が追加されていることを確認してください。
転送処理を有効にしたい条件の名前をクリックして**詳細 / 編集**ページを開き、**状況**を**オン**に設定します。
5. 次に、転送処理の内容を設定します。同ページ下段の**アクション設定**から、次の3項目のいずれかをクリックします。印刷とファクスボックスへの保存の両方といった、複数の転送処理を同時に行いたい場合は、それぞれクリックして内容を設定します。

項目	説明
印刷	受信原稿を紙に印刷します。
名前	条件の名前を表示します。
状況	現在、その条件が使用されているかどうかを表示します。
印刷	紙に印刷するかどうかを指定します。
印刷部数	前項目でオンを選択した場合、印刷する部数を指定します。
転送	受信原稿を他のファクスやメールアドレス、共有フォルダなどへ転送します。
名前	条件の名前を表示します。
状況	現在、その条件が使用されているかどうかを表示します。
転送	転送を行う場合は オン を選択します。
ファイル形式	転送する際のファイル形式を PDF、TIFF のいずれかから選択します。(転送先が、メール、SMB、FTP の場合に有効です。)
FTP 暗号送信	暗号送信を行う場合は オン を選択します。
件名付加情報	転送する宛先が メール に設定されている場合、メールの件名に 送信元名 または 送信元ファクス番号 / アドレス を付加して転送します。 なし を選ぶと何も付加しません。
ページ分割	1 ページを 1 ファイルとして、ページごとに複数のファイルに分割するかどうかを指定します。 オン を選択するとページを分割します。(転送先が、メール、SMB、FTP の場合に有効です。)
宛先数	次項目で表示される、登録済の宛先の数を表示します。
宛先リスト	あらかじめ設定されている転送先の宛先を一覧で表示します。ここに表示されている宛先すべてに転送処理を行います。宛先の追加方法は、27 ページの 宛先の設定 を参照してください。
ファクスボックスへ保存	受信原稿をファクスボックスへ保存します。
名前	条件の名前を表示します。

項目	説明
状況	現在、その条件が使用されているかどうかを表示します。
ファクスボックスへ保存	ファクスボックスへ保存するかどうかを指定します。設定されている転送条件に該当しない場合は、ファクスボックスへ保存しません。
名称	保存するファクスボックスを指定します。選択ボタンをクリックすると、登録されているファクスボックスのリストが表示されます。保存するファクスボックスはあらかじめ登録されている必要があります。ファクスボックスの追加方法は、35 ページの 文書ボックス > ファクスボックス を参照してください。

6. すべての項目の指定が終わったら、**設定** ボタンをクリックします。
7. **詳細 / 編集** ページへ戻ります。すべての項目の指定が終わったら、**設定** ボタンをクリックします。
8. **条件** リストページが表示されます。今設定した条件の状況が **オン** になっていることを確認してください。複数の条件を設定したい場合は、上記手順を繰り返し行ってください。
9. 最後に、**条件** リストの条件にどれも合致しなかった場合、どう処理するかを設定します。**条件に該当しない場合の詳細** をクリックします。
10. **条件** リスト・**詳細** ページが表示されます。条件に該当しなかった場合の転送処理を行うかどうかを、状況の **オン / オフ** で設定します。**オン** に設定した場合、それ以降の項目について設定します。設定方法は、新たに条件を追加する方法とほぼ同じですので、上記手順 2～6 を参考にして、必要な項目を設定してください。
11. 各項目の指定が終わったら、**設定** ボタンをクリックします。

これで、条件リストを使用して転送処理を行う設定が終了しました。

条件リストを使用しないですべて同一の転送処理を行う設定

ファクス / ファクス > 条件付き受信 / 転送 > 基本ページを開きます。

1. **条件** 付き受信 / 転送で、**詳細** をクリックします。
2. **条件** 付き受信 / 転送・**詳細** ページが表示されます。ここで、転送処理の方法を指定します。設定方法は、新たに条件を追加する方法とほぼ同じですので、前項の手順 2～6 を参考にして、必要な項目を設定してください。

注意：条件リストを使用しないですべて同一の転送処理を行う場合、ファクスボックスへ保存する処理を設定することはできません。

3. 各項目の指定が終わったら、**設定** ボタンをクリックします。
4. **条件** 付き受信 / 転送ページに戻ります。すべてを選択して、**設定** ボタンをクリックします。

これで、条件リストを使用しないですべて同一の転送処理を行う設定が終了しました。

宛先の設定

前項のアクション設定で転送に設定する場合、あらかじめ宛先を登録しておく必要があります。新たに追加する方法と、アドレス帳に登録されているアドレスを宛先として追加する方法があります。

新規追加

条件付き受信 / 転送 > 条件リスト > 詳細のアクション設定 > 転送ページを開きます。

1. 追加をクリックします。
2. 宛先種類から、希望する転送処理の種類を選択します。次の種類から選択できます。

項目	説明
メール	メールで送信します。メールアドレスを指定します。
SMB	Microsoft Windows Network でアクセス可能な共有フォルダに保存できます。ホスト名、ポート番号、共有フォルダのパス、ログインユーザ名、ログインパスワードを指定します。
FTP	アクセス可能な FTP サーバへ保存できます。ホスト名、ポート番号、フォルダのパス、ログインユーザ名、ログインパスワードを設定します。
ファクス	ほかのファクスへ転送します。ファクス番号や送信開始速度など、転送先の必要な情報を指定します。
i-ファクス	ほかの i-ファクスへ転送します。i-ファクスアドレスや接続モードなど、転送先の必要な情報を指定します。

3. 宛先の指定が終わったら、設定ボタンをクリックします。アクション設定 > 転送ページが表示されます。宛先リストに宛先が追加されていることを確認してください。

アドレス帳から追加

アドレス帳には、個人アドレス帳とグループアドレス帳の2種類があります。個人アドレス帳は1件につき1人のアドレスが登録されています。グループアドレス帳は1件につき複数のアドレスが登録されています。グループアドレスを追加した場合、そのグループに登録されているすべてのアドレスへ転送処理されます。

アドレス帳から追加するには、あらかじめアドレス帳にアドレスが登録されている必要があります。アドレス帳の登録の仕方は、10 ページの基本 > 初期設定 > アドレス帳 > 個人アドレスまたは 11 ページの基本 > 初期設定 > アドレス帳 > グループアドレスを参照してください。

条件付き受信 / 転送 > 条件リスト > 詳細のアクション設定 > 転送ページを開きます。

1. 個人アドレス帳から挿入またはグループアドレス帳から挿入をクリックします。
2. アドレス帳が開きます。宛先に追加したいアドレスまたはグループのチェックボックスにチェックを入れます。
3. 選択が終わったら、設定ボタンをクリックします。
4. アクション設定 > 転送ページが表示されます。宛先リストに宛先が追加されていることを確認してください。

削除

宛先リストから宛先を削除します。

条件付き受信 / 転送 > 条件リスト > 詳細のアクション設定 > 転送ページを開きます。

1. 宛先リストから、削除したい宛先のチェックボックスにチェックを入れます。
2. 選択が終わったら、削除をクリックします。アクション設定 > 転送 - 削除ページが表示され、削除する宛先を確認できます。
3. 削除する宛先が正しければ、削除ボタンをクリックします。
4. アクション設定 > 転送ページが表示されます。宛先リストから宛先が削除されていることを確認してください。確認したら、設定ボタンをクリックします。

ファクス / ファクス > ファクス > 初期設定

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
自局番号 (ポート 1/2)	ファクスシステムの番号を指定します。
ファクス回線 (ポート 1/2)	使用している電話サービスに対応する電話回線の種類を設定します。 ブッシュ、ダイヤル 10pps、ダイヤル 20pps から選択します。
自局 ID	ファクスシステムの ID を指定します。
スピーカ音量	オンフックキーを押して電話回線の状態を確認する場合の、内部スピーカの音量を設定します。オフ、レベル 1、2、3 から選択します。
モニタ音量	オンフックキーを押さないで電話回線の状態を確認する場合の、内部スピーカの音量を設定します。オフ、レベル 1、2、3 から選択します。

ファクス / ファクス > ファクス > 受信

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
ファクス受信	ファクスの受信モードを設定します。
ファクスリモート切替ダイヤル番号	FAX リモート切替ダイヤル番号を指定します。00 ~ 99 の範囲で指定できます。リモート切替により、ファクスシステムに接続された電話からファクス受信を開始できます。
暗号鍵 No.	暗号化通信に使用する、暗号鍵の番号を設定します。
F ネット無鳴動受信	無鳴動受信するかどうかを設定します。
ダイヤルイン	ダイヤルインするかどうかを設定します。
ダイヤルイン番号	ダイヤルインする電話番号を指定します。

項目	説明
ダイヤルイン電話番号	ダイヤルインする電話番号を指定します。
ダイヤルインファクス番号	ダイヤルインするファクス番号を指定します。
受信専用ポート設定	受信専用ポートを設定します（マルチポート時に表示）。
ベル回数（ノーマル）	自動ファクス受信（ノーマル）の場合に、呼び出し音が鳴る回数を設定します。1～15の範囲で指定できます。
ベル回数（留守番電話接続）	自動ファクス受信（TAD）の場合に、呼び出し音が鳴る回数を設定します。1～15の範囲で指定できます。
ベル回数（ファクス/電話）	自動ファクス受信（ファクス/電話）の場合に、呼び出し音が鳴る回数を設定します。0～15の範囲で指定できます。

ファクス/i-ファクス > ファクス > ファクス制限 > 基本

このページで設定できる項目は次のとおりです。設定項目を選択後に、**設定**ボタンを押してください。

項目	説明
送信制限	制限しない、許可リストとアドレス帳を使用から送信の制限方法を選択します。
受信制限	制限しない、許可リストとアドレス帳を使用、拒否リストを使用から受信の制限方法を選択します。

ファクス/i-ファクス > ファクス > ファクス制限 > 許可番号リスト

許可するファクス番号の追加や、設定したファクス番号の削除を行います。

項目	説明
追加	追加をクリックすると、 許可番号リスト - 追加 ページが表示されます。 許可ファクス番号 に、追加するファクス番号を入力して、 設定 ボタンを押します。
削除	許可番号リストからファクス番号を削除するには、削除したい番号のチェックボックスにチェックを入れて、 削除 をクリックします。確認画面が表示されますので、正しければ 削除 ボタンを押します。

ファクス/i-ファクス > ファクス > ファクス制限 > 許可 ID リスト

許可するファクス ID の追加や、設定したファクス ID の削除を行います。

項目	説明
追加	追加をクリックすると、許可 ID リスト - 追加ページが表示されます。許可ファクス ID に、追加するファクス ID を入力して、設定ボタンを押します。
削除	許可 ID リストからファクス ID を削除するには、削除したい ID のチェックボックスにチェックを入れて、削除をクリックします。確認画面が表示されますので、正しければ削除ボタンを押します。

ファクス/i-ファクス > ファクス > ファクス制限 > 拒否番号リスト

拒否するファクス番号の追加や、設定した拒否ファクス番号の削除を行います。

項目	説明
追加	追加をクリックすると、拒否番号リスト - 追加ページが表示されます。拒否ファクス番号に、拒否したいファクス番号を入力して、設定ボタンを押します。
削除	拒否番号リストからファクス番号を削除するには、削除したい ID のチェックボックスにチェックを入れて、削除をクリックします。確認画面が表示されますので、正しければ削除ボタンを押します。

ファクス/i-ファクス > ファクス > 暗号鍵

16 進法で暗号鍵を指定します。暗号鍵の長さは、16 桁です。0～9 の数字と A～F の英字を使って 16 文字入力してください。

ファクス/i-ファクス > i-ファクス > 初期設定

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
i-ファクス	i-ファクス機能を使用するかどうかを設定します。使用する場合はオンを選択します。

ファクス/i-ファクス > i-ファクス > SMTP

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
SMTP ポート番号	SMTP が使用するポート番号を指定します。通常は 25 番を使用します。

項目	説明
SMTP サーバ名	SMTP サーバ名または SMTP サーバの IP アドレスを入力します。IP アドレスではなく、サーバ名を入力する場合は、DNS サーバを設定する必要があります。DNS サーバの指定は、TCP/IP 一般タブ（37 ページの 詳細 > プロトコル > TCP/IP > 基本 を参照）で行えます。
SMTP サーバのタイムアウト	SMTP サーバへの接続がタイムアウトする時間を秒単位で設定します。
認証	SMTP 認証を行うかどうかを設定します。この SMTP 認証は Microsoft Exchange 2000 に対応しています。一般的な認証方法である、POP before SMTP も設定できます。
使用するユーザ	SMTP 認証を行なう場合、認証を行なうユーザを選択します。i ファクスユーザ以外を選択する場合は、 その他 を選択し、認証を行なう ログインアカウント名 と ログインパスワード を入力します。
ログインユーザ名	使用するユーザで その他 を選択した場合、認証を行なうユーザ名を入力します。
ログインパスワード	ログインパスワードを入力します。
POPbeforeSMTP のタイムアウト	認証方法に POP before SMTP を選択した場合、SMTP サーバへの接続がタイムアウトする時間を秒単位で指定します。
テスト	このページで設定した内容が正しいかどうかをテストします。テストボタンを押すと、SMTP サーバへ接続を試みます。
メール送信のサイズ制限	送信可能なメールの最大サイズをキロバイトで入力します。この値が 0 の場合、 メールサイズの制限が無効 になります。
差出人アドレス	本機が送信するメールの差出人のアドレスを表示します。差出人アドレスを変更するには、32 ページの ファクス / ファクス > i ファクス > POP3 のメールアドレス で設定してください。
署名	メール本文の最後に挿入される署名を表示します。署名を変更するには、42 ページの 詳細 > メール > SMTP > 基本 を参照してください。

ファクス /i- ファクス > i- ファクス > POP3

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
着信チェック間隔	着信メールの有無を確認するために、POP3 サーバに接続する間隔を分単位で表示します。この設定内容を変更するには、44 ページの 詳細 > メール > POP3 > 基本 を参照してください。
直ちに実行	受信ボタンをクリックすると、直ちに POP3 サーバに接続して着信メールの有無をチェックします。
メールアドレス	i- ファクスの電子メールアドレスを入力します。30 ページの ファクス /i- ファクス > i- ファクス > SMTP の 差出人アドレス に表示されます。
POP3 サーバ名	POP3 サーバ名または POP3 サーバの IP アドレスを入力します。IP アドレスではなく、サーバ名を入力する場合は、DNS サーバを設定する必要があります。DNS サーバの指定は、TCP/IP 一般タブ (37 ページの 詳細 > プロトコル > TCP/IP > 基本 を参照) で行えます。
POP3 ポート番号	POP3 が使用するポート番号を設定します。通常は 110 番を使用します。
POP3 サーバのタイムアウト	POP3 サーバへの接続がタイムアウトする時間を秒単位で指定します。
ログインユーザ名	POP3 アカウントのログインユーザ名を入力します。
ログインパスワード	POP3 アカウントのログインパスワードを入力します。
APOP の使用	APOP を使用するかどうかを設定します。POP3 サーバが APOP に対応しているかどうか確認してください。
テスト	このページで設定した内容が正しいかどうかをテストします。テストボタンを押すと、POP3 サーバへ接続を試みます。
メール受信のサイズ制限	受信メールの最大サイズをキロバイトで入力します。この値に 0 を指定すると、メールサイズの制限が無効になります。
カバーページ	メール受信時に、添付ファイルと同時にメールの本文も印刷するかどうかを指定します。 オンに設定すると、添付ファイルと一緒にメールの本文も印刷されます。添付ファイルが存在しなければ、メールの本文のみが印刷されます。 オフに設定すると、添付ファイルだけが印刷されます。添付ファイルが存在しなければ何も印刷されません。

ファクス /i- ファクス > i- ファクス > ドメイン制限 > 基本

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
SMTTP 制限	なし、拒否、許可から制限を選択します。
POP3 制限	なし、拒否、許可から制限を選択します。

ファクス /i- ファクス > i- ファクス > ドメイン制限 > SMTTP 制限リスト

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
ドメイン名	許可または拒否するドメイン名を入力します。メールアドレスも指定できます。

ファクス /i- ファクス > i- ファクス > ドメイン制限 > POP3 制限リスト

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
ドメイン名	許可または拒否するドメイン名を入力します。メールアドレスも指定できます。

ジョブページ

このページでは、ジョブの状況、予約ジョブ、ジョブ履歴など、プリントシステムのジョブに関する情報が確認できます。各ページでジョブ番号をクリックすると、ジョブの詳細情報が表示されます。

このページで表示される項目は次のとおりです。

ページ	説明
状況 > 印刷ジョブ状況	それぞれのジョブの状況が表示されます。更新ボタンをクリックすると、最新の表示になります。ジョブのキャンセルボタンをクリックすると、選択されたジョブの実行をキャンセルします。
状況 > 送信ジョブ状況	
状況 > 保存ジョブ状況	
予約	ファクス送信の予約ジョブが表示されます。更新ボタンをクリックすると、最新の表示になります。ジョブのキャンセルボタンをクリックすると、選択されたジョブの実行をキャンセルします。
履歴 > 印刷ジョブ履歴	それぞれのジョブ履歴が表示されます。更新ボタンをクリックすると、最新の表示になります。
履歴 > 送信ジョブ履歴	
履歴 > 保存ジョブ履歴	

文書ボックス

このページでは、文書ボックスの追加や削除、文書ボックス内に保存されている文書の削除など、プリントシステムのボックス機能に関する設定を行います。

文書ボックスには、ユーザボックス、ファクスボックス（またはFコードボックス）と、ポーリングボックスがあります。

文書ボックス > ユーザボックス

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
登録件数	登録済みのユーザボックス数を表示します。
追加	新しいユーザボックスを追加する画面が表示されます。必要な情報を入力し、 設定 ボタンをクリックします。
削除	チェックを入れたユーザボックスを削除します。

ユーザボックスの追加、編集、削除方法は次のとおりです。

新しいユーザボックスの追加

1. ユーザボックスページを開きます。
2. 追加をクリックして、ユーザボックスの情報を入力します。
3. 設定ボタンをクリックします。

ユーザボックスの編集

1. ユーザボックスページを開きます。
2. 編集するユーザボックスの**番号**をクリックします。
3. **詳細 / 編集**をクリックして、ユーザボックスの情報を入力します。
4. 設定ボタンをクリックします。

ユーザボックスの削除

1. ユーザボックスページを開きます。
2. 削除するユーザボックスにチェックを入れます。
3. **削除**をクリックします。**ユーザボックス - 削除**ページが表示され、削除するユーザボックスを確認できます。
4. 削除するユーザボックスが正しいければ、**削除**ボタンをクリックします。

文書ボックス > ファクスボックス

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
登録済み	登録済みのファクスボックス数を表示します。
追加	新しいファクスボックスを追加する画面が表示されます。必要な情報を入力し、 設定 ボタンをクリックします。
削除	チェックを入れたファクスボックスを削除します。

ファクスボックスの追加、編集、削除方法は次のとおりです。

新しいファクスボックスの追加

1. ファクスボックスページを開きます。
2. 追加をクリックして、ファクスボックスの情報を入力します。
3. 設定ボタンをクリックします。

ファクスボックスの編集

1. ファクスボックスページを開きます。
2. 編集するファクスボックスの番号をクリックします。
3. 詳細 / 編集をクリックして、ファクスボックスの情報を入力します。
4. 設定ボタンをクリックします。

ファクスボックスの削除

1. ファクスボックスページを開きます。
2. 削除するファクスボックスにチェックを入れます。
3. 削除をクリックします。ファクスボックス - 削除ページが表示され、削除するファクスボックスを確認できます。
4. 削除するファクスボックスが正しければ、削除ボタンをクリックします。

文書ボックス > F コードボックス

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
登録済み	登録済みの F コードボックス数を表示します。
追加	新しい F コードボックスを追加する画面が表示されます。必要な情報を入力し、 設定 ボタンをクリックします。
削除	チェックを入れた F コードボックスを削除します。

F コードボックスの追加、編集、削除方法は次のとおりです。

新しい F コードボックスの追加

1. F コードボックスページを開きます。
2. 追加をクリックして、F コードボックスの情報を入力します。
3. 設定ボタンをクリックします。

F コードボックスの編集

1. F コードボックスページを開きます。
2. 編集する F コードボックスの番号をクリックします。
3. 詳細 / 編集をクリックして、F コードボックスの情報を入力します。
4. 設定ボタンをクリックします。

F コードボックスの削除

1. F コードボックスページを開きます。
2. 削除する F コードボックスにチェックを入れます。
3. 削除をクリックします。F コードボックス - 削除ページが表示され、削除する F コードボックスを確認できます。
4. 削除する F コードボックスが正しいければ、削除ボタンをクリックします。

文書ボックス > ポーリングボックス

このページで表示される項目は次のとおりです。

項目	説明
登録済み	登録済みの文書数を表示します。
削除	チェックを入れた文書を削除します。
詳細 / 編集	送信後に文書を自動的に削除するか、文書の上書き保存を許可するかどうかを指定します。

ポーリングボックスの詳細 / 編集

1. ポーリングボックスページを開きます。
2. 詳細 / 編集をクリックして、送信後に文書を削除するか、文書の上書き保存を行うかの設定を行います。
3. 設定ボタンをクリックします。

ポーリングボックス内の文書の削除

1. ポーリングボックスページを開きます。
2. 削除する文書にチェックを入れます。番号の左横にあるチェックボックスにチェックを入れると、ページ上のすべての文書にチェックが入ります。

3. 削除をクリックします。ポーリングボックス - 削除ページが表示され、削除する文書を確認できます。
4. 削除する文書が正しければ、削除ボタンをクリックします。

詳細ページ

このページでは、詳細なネットワーク管理など、プリントシステム全体に関する設定を行います。

このページで設定を変更した場合は、設定の内容を正しく登録するために、本機を再起動する必要があります。9 ページの **基本 > 初期設定 > リセット** を参照してください。

詳細 > ネットワークプロトコル情報 / セキュアプロトコル情報

ここでは、すでに設定されているプロトコルの使用状況が表示されます。表示されるプロトコルは、次のとおりです。

- TCP/IP
- NetWare
- IPP
- AppleTalk
- NetBEUI
- SMTP
- POP3
- SNMP v1/v2
- SNMPv3
- LDAP
- SSL
- IPSec
- IEEE802.1x

詳細 > プロトコル > TCP/IP > 基本

TCP/IP プロトコルに関する設定を行います。

項目	説明
ホスト名	本機の名前を指定します。この名前は、NetBEUI プリント名としても使用されます。
IPv4 設定 DHCP/BOOTP	DHCP または BOOTP を使って、IP アドレスを自動取得するかどうかを指定します。
IP アドレス	本機に IPv4 のアドレスを割り当てます。IPv4 アドレスのフォーマットは、ドットで区切られた 32 ビットの数字です。(例) 192.168.110.171
サブネットマスク	サブネットマスクを指定します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
ドメイン名	本機が所属するドメイン名を指定します。ホストプリント名は含まれません。(例: kyoceramita.co.jp)

項目	説明
DNS サーバ (プライマリ、セカンダリ)	プライマリおよびセカンダリ DNS (ドメインネームシステム) サーバの IP アドレスを設定します。DHCP/BOOTP をオンにした場合、DHCP から DNS サーバを使用するか、この画面で設定する DNS サーバを使用するかを選択できます。
WINS サーバ (プライマリ、セカンダリ)	プライマリおよびセカンダリ WINS サーバの IP アドレスを指定します。DHCP/BOOTP をオンにした場合、DHCP から WINS サーバを使用するか、この画面で設定する WINS サーバを使用するかを選択できます。
Bonjour	Bonjour による、IP アドレス自動取得を行うかどうかを設定します。Mac OS X のプリンタセンターから、Bonjour プリンタを追加します。Windows の場合は、Bonjour プリンタウィザードを使ってプリンタを追加できます。 Bonjour によって IP アドレスを自動取得するには、次の条件で行ってください。DHCP/BOOTP がオフの場合は、IP アドレスを指定しないでください。また、DHCP/BOOTP がオンの場合は、DHCP サーバによる自動割当てがされないことが必要です。 Mac OS X から印刷するときは、プリンタが KPD L に対応している必要があります。
Bonjour 名	Bonjour の設定をオンにした場合、使用する Bonjour 名を指定します。
IPv6 設定 IPv6	IPv6 プロトコルを有効にするかどうかを設定します。IPv6 プロトコル使用時はオンにしてください。
IP アドレス	本機に IPv6 のアドレスを割り当てます。IPv6 アドレスのフォーマットは、コロンで区切られた 128 ビットの数字です。 (例) 2001:db8:3c4d:15::1a2c:1a1f
プレフィックス長	IPv6 のプレフィックス長を入力します。0~128 の 10 進数で入力します。
RA (Stateless)	DHCP サーバーを使わずに、RA によって IPv6 アドレスを設定する場合にオンにします。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IPv6 アドレスを指定します。
DHCPv6 (Stateful)	自動設定を使って、IPv6 の IP アドレスを自動取得するかどうかを指定します。RA がオンの場合は、RA (ルータ設定) の自動設定の設定にしたがい、DHCPv6 による IP アドレスとサーバ情報の取得を行います。
ドメイン名	本機が所属するドメイン名を指定します。

項目	説明
DNS サーバ (プライマリ、セカンダリ)	プライマリおよびセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを指定します。DHCPv6 (Stateful) をオンにした場合、DHCP から DNS サーバを使用するか、この画面で設定した DNS サーバを使用するかを選択できます。

詳細 > プロトコル > TCP/IP > IP フィルタ

ここでは、IP フィルタの設定を行います。IP フィルタとは、本機へのアクセスを IP アドレスやプロトコルの種類によって制限する機能です。

許可するホストの IP アドレス、またはネットワークアドレスを指定します。

このページで何も設定しない場合、すべてのホストからのアクセスを許可します。

項目	説明
IP フィルタ (IPv4) IP アドレス (IPv4)	許可する IP アドレスかネットワークアドレスを指定します。指定可能なエントリの数は、機種によって異なります。
サブネットマスク	許可するサブネットマスクを指定します。 ネットワーク 192 上のすべてのホストにアクセスを許可するには、IP アドレスに「192.0.0.0」、サブネットマスクに「255.0.0.0」と入力します。
プロトコル	許可するプロトコルを指定します。選択できるプロトコルは、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - LPD - FTP - IPP - HTTP - RAW Port - SNMP - IPP over SSL - HTTPS
IP フィルタ (IPv6) IP アドレス (IPv6)	許可する IP アドレスを指定します。指定可能なエントリの数は、機種によって異なります。
プレフィックス長	IPv6 のプレフィックス長を入力します。0~128 の 10 進数で入力します。
プロトコル	許可するプロトコルを指定します。選択できるプロトコルは、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - LPD - FTP - IPP - HTTP - RAW Port - SNMP

詳細 > プロトコル > TCP/IP > ロジカルプリンタ

プリントデータを ASCII から PostScript へ変換したり、ジョブデータの先頭や終端に文字列（命令）を追加または置き換える仮想プリンタとして、本機を使用することができます。ロジカルプリンタは 4 台まで設定できます。

ロジカルプリンタは、FTP、LPR、IPP、NetBEUI、Raw Port のいずれかのプロトコルで使用できます。存在しないポートへのプリントアウトはすべて、**ロジカルプリンタ 1** に出力されます。

項目	説明
TCP/IP ポート番号	TCP の RAW ポート番号（9100 など）と同様に、ロジカルプリンタにポート番号を指定します。指定ロジカルプリンタに応じて指定 RAW ポートに入力されたデータが変換されます。指定済のポート（例えば FTP や LPR）と同じポート番号を指定した場合は、ポートの指定は無効です。
双方向印刷	TCP/IP の RAW ポートを使用した双方向印刷を行うかどうか指定します。この設定をオフにすると、送信されるデータはすべて破棄されます。PostScript、PDL その他のコマンドで印刷するときにプリンタから受信したデータをクライアントに返すためには、双方向印刷をオンにする必要があります。
ジョブのはじめ	出力ポート（lp ポート）に直接出力する前に、プリンタに送信する文字列を指定します。印刷開始前に制御コードを転送する必要がある場合は、その文字列を指定します。
ジョブの終わり	出力ポート（lp ポート）に直接出力した後に、プリンタに送信する文字列を指定します。印刷終了後に制御コードを転送する必要がある場合は、その文字列を指定します。

詳細 > プロトコル > NetWare

本機は、プリントサーバモードまたはリモートプリンタモードのいずれかで、NDS およびバインドリの両方の環境での印刷に対応しています。

NetWare のセットアップを行うには、クライアントソフトウェアの導入と管理者権限によるログオンが必要です。不明な場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

Novell Client の場合、AdminManager NetWare セットアップウィザードを使用して NetWare プリントオブジェクトを作成するには、Novell 社の NetWare Client が必要です。また、NetWare で印刷する場合は、Novell 社または Microsoft 社の NetWare Client が使用できます。

キューなどの作成に関するネットワーク操作には、admin、supervisor、または同等の権限が必要です。権限が付与されていない場合、これらの操作を行なおうとすると、AdminManager の一部を実行できないことがあります。

項目	説明
NetWare	NetWare プロトコルを使用するかどうかを設定します。

項目	説明
バインダリモード	バインダリモードを使用するかどうかを設定します。
フレームタイプ	フレームタイプを選択します。
ファイルサーバ (プライマリ)	プライマリファイルサーバ名を入力します。
NDS ツリー名	NDS ツリー名を入力します。
NDS コンテキスト	NDS コンテキストを入力します。
プリントサーバモード	プリントサーバモードを使用するかどうかを設定します。
プリントサーバ名	プリントサーバ名を入力します。
キューポーリング間隔	キューポーリング間隔を秒単位で設定します。
パスワード	パスワードを入力します。ここで設定したパスワードが NetWare コーティリティで設定したプリントサーバのパスワードに一致しないとログインできません。
リモートプリンタモード	リモートプリンタモードを使用するかどうかを設定します。
プリントサーバ名	リモートプリンタの属する、プリンタサーバ名を入力します。
ジョブタイムアウト	リモートプリンタモードでの操作時に、ジョブがタイムアウトする時間を秒単位で設定します。

詳細 > プロトコル > IPP

IPP (Internet Printing Protocol) や、IPP over SSL を使用して、インターネットまたはイントラネット上のプリントシステムに出力できます。

項目	説明
IPP	IPP プロトコルを使用するかどうかを設定します。
IPP ポート番号	IPP プロトコルが使用するポート番号を設定します。通常は 631 に設定してください。 ポートの設定例 http://(IP address):631/printers/lp1
IPP over SSL	IPP over SSL プロトコルを使用するかどうかを設定します。オンに設定した場合は、セキュアプロトコル設定の SSL をオンにする必要があります。セキュアプロトコルについては、52 ページの 詳細 > セキュリティ > セキュアプロトコル を参照してください。
IPP over SSL ポート番号	IPP over SSL プロトコルが使用するポート番号を設定します。通常は 443 に設定してください。 ポートの設定例 https://(IP address):443/printers/lp1

詳細 > プロトコル > AppleTalk

AppleTalk プロトコルを使用して、Macintosh からの印刷ができます。本機は Mac OS に対応しており、LaserWriter ドライババージョン 8.x との互換性があります。

項目	説明
AppleTalk	AppleTalk プロトコルを使用するかどうかを設定します。
プリンタ名	AppleTalk ネットワークのプリンタ名を入力します。
ゾーン名	AppleTalk ゾーン（ネットワーク）の名前を入力します。アスタリスク（*）は初期設定のゾーンを意味します。

詳細 > プロトコル > NetBEUI

NetBEUI プロトコルを使用して、ピア・ツー・ピア環境での印刷が可能です。この場合、本機は、Windows のマイ ネットワークに登録されています。

項目	説明
NetBEUI	NetBEUI プロトコルを使用するかどうかを設定します。NetBEUI がオンの場合には、NetBIOS（NMB）による名前解決が利用できます。
プリンタ名	本機の NetBIOS 名を表示します。プリンタ名は TCP/IP 設定ページ（37 ページの詳細 > プロトコル > TCP/IP > 基本を参照）で指定したホスト名と相関関係があります。NetBEUI のプリンタ名を変更したい場合は TCP/IP のホスト名を変更してください。
ワークグループ	本機が所属するワークグループを指定します。
説明	本機の説明を入力できます。（この欄は、空白のままでも問題ありません。）

詳細 > メール > SMTP > 基本

本機は、トナー切れなどの情報をメール機能によって指定したメールアドレスへ送信できます。メール機能を使用するには、本機をメールサーバに接続するために、SMTP（Simple Mail Transfer Protocol）の設定を行います。

項目	説明
SMTP	SMTP プロトコルを使用するかどうかを設定します。
SMTP ポート番号	SMTP が使用するポート番号を設定します。通常は 25 番を使用します。

項目	説明
SMTP サーバ名	SMTP サーバ名または SMTP サーバの IP アドレスを入力します。IP アドレスではなく、サーバ名を入力する場合は、DNS サーバを設定する必要があります。DNS サーバの指定は、TCP/IP 一般タブ (37 ページの詳細 > プロトコル > TCP/IP > 基本を参照) で行えます。
SMTP サーバのタイムアウト	SMTP サーバへの接続がタイムアウトする時間を秒単位で設定します。
認証	SMTP 認証を行うかどうかを設定します。この SMTP 認証は Microsoft Exchange 2000 に対応しています。一般的な認証方法である、POP before SMTP も設定できます。
使用するユーザ	SMTP 認証を行う場合、認証を行うユーザを指定します。POP3 ユーザ 1 ~ 3 (45 ページの詳細 > メール > POP3 > ユーザ # を参照) および i-ファクスユーザが設定されているときは、そのいずれかを選択できます。それ以外を選択したい場合は、 その他 を選択し、認証を行うログインアカウント名とログインパスワードを入力します。
ログインユーザ名	使用するユーザで その他 を選択した場合、認証を行うユーザ名を入力します。
ログインパスワード	使用するユーザで その他 を選択した場合、認証を行うログインユーザのパスワードを入力します。
POPbeforeSMTP のタイムアウト	認証方法に POP before SMTP を選択した場合、SMTP サーバへの接続がタイムアウトする時間を秒単位で指定します。
テスト	このページで設定した内容が正しいかどうかをテストします。テストボタンを押すと、SMTP サーバへ接続を試みます。
メール送信のサイズ制限	送信可能なメールの最大サイズをキロバイトで入力します。この値が 0 の場合、 メールサイズの制限 が無効になります。
差出人アドレス	本機が送信するメールの差出人のメールアドレスを指定します。配信エラーメールなどが、ここで指定した差出人のメールアドレスに返信されますので、架空のメールアドレスではなく、管理者などが受け取れるメールアドレスを指定してください。SMTP 認証を設定している場合は、メールアドレスを正確に入力する必要があります。なお、差出人のメールアドレスの指定がない場合は、メールを送信できません。
署名	メール本文の最後に挿入される署名を入力します。テキスト形式で入力してください。プリントシステムが複数ある場合、署名で識別することができます。
ドメイン制限	許可または拒否するドメイン名を入力します。メールアドレスも指定できます。

詳細 > メール > SMTP > メール受取人 #

メールを受け取るアドレスとイベントレポートに関する内容を設定します。3 ユーザまで設定できます。

項目	説明
受取人 # のアドレス	受取人のメールアドレスを入力します。配信先リストアドレスを入力しておけば、複数の受取人に簡単に送信できます。
件名	件名に表示する情報を指定します。次の % で始まる変数を入力すると、本機に設定されている各情報の値に変換され、件名に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> - %printer = モデル名 - %serial = シリアル番号 - %etheraddr = MAC アドレス - %host = ホスト名 - %ip = IP アドレス
イベントレポート項目	通知を希望するエラーイベントを選択します。選択できるイベントは、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - 用紙切れ - トナー残量少 - トナー切れ - カバーオープン - 紙づまり - その他
イベントレポート間隔	イベントが発生したときに、レポートを送信する間隔を入力します。間隔は 1 分から 10000 分まで設定できます。
スケジュールレポート項目	スケジュールしたいレポートの項目を選択します。
スケジュールレポート間隔	スケジュールレポートの頻度とタイミングを次から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> - なし：レポートは送信されません。 - 月ごと：指定月の指定日時に送信されます。 - 週ごと：毎週指定日時に送信されます。 - 日ごと：毎日指定日に送信されます。 - 時間ごと：指定間隔で毎時送信されます。 31 日のように当月に指定日が存在しない場合は、月の最後の日が指定日として使用されます。
直ちに実行	送信ボタンをクリックすると、レポートを直ちに 1 回送信します。

詳細 > メール > POP3 > 基本

メール機能を使用するには、POP3 プロトコルを使用して、本機をメールサーバに接続する必要があります。

項目	説明
POP3	POP3 プロトコルを使用するかどうかを設定します。

項目	説明
着信チェック間隔	着信メールの有無を確認するために、POP3 サーバに接続する間隔を分単位で設定します。
直ちに実行	受信ボタンをクリックすると、直ちに POP3 サーバに接続して着信メールの有無をチェックします。
ドメイン制限	許可または拒否するドメイン名を入力します。メールアドレスも指定できます。

詳細 > メール > POP3 > ユーザ

POP3 ユーザアカウントと POP3 サーバに関する内容を設定します。3 ユーザまで設定できます。

項目	説明
ユーザ設定 #	このユーザを使用するかどうかを設定します。
メールアドレス	電子メールアドレスを入力します。
POP3 サーバ名	POP3 サーバ名または POP3 サーバの IP アドレスを入力します。IP アドレスではなく、サーバ名を入力する場合は、DNS サーバを設定する必要があります。DNS サーバの指定は、TCP/IP 一般タブ (37 ページの 詳細 > プロトコル > TCP/IP > 基本 を参照) で行えます。
POP3 ポート番号	POP3 が使用するポート番号を設定します。通常は 110 番を使用します。
POP3 サーバのタイムアウト	POP3 サーバへの接続がタイムアウトする時間を秒単位で指定します。
ログインユーザ名	POP3 アカウントのログインユーザ名を入力します。
ログインパスワード	POP3 アカウントのログインパスワードを入力します。
APOP の使用	APOP を使用するかどうかを設定します。POP3 サーバが APOP に対応しているかどうか確認してください。
テスト	このページで設定した内容が正しいかどうかをテストします。テストボタンを押すと、POP3 サーバへ接続を試みます。
サーバからメールを削除する	受信と同時に POP3 サーバ上のメールを削除するかどうかを設定します。オンに設定すると、サーバ上のメールを削除し、オフに設定すると受信してもメールを削除しません。
メール受信のサイズ制限	受信メールの最大サイズをキロバイトで入力します。この値に 0 を指定すると、メールサイズの制限が無効になります。

項目	説明
カバーページ	メール受信時に、添付ファイルと同時にメールの本文も印刷するかどうかを指定します。 オンに設定すると、添付ファイルと一緒にメールの本文も印刷されます。添付ファイルが存在しなければ、メールの本文のみが印刷されます。 オフに設定すると、添付ファイルだけが印刷されます。添付ファイルが存在しなければ何も印刷されません。

詳細 > 管理 > SNMP > SNMPv1/v2c

SNMP プロトコルは、ネットワーク内の管理情報の通信に使用されます。用紙切れなどのエラーが発生した場合、本機は、自動的にトラップの生成を行ない、指定されたトラップ受信者にエラーメッセージを送信します。コミュニティ名とは、パスワードのように使用される文字列です。

項目	説明
SNMPv1/v2c	SNMP v1/v2c プロトコルを使用するかどうかを設定します。使用する場合はオンを設定します。設定後は本体を再起動する必要があります。
リードコミュニティ名	読取要求用のコミュニティ名を入力します。初期設定のリードコミュニティ名は public です。設定後は本体を再起動する必要があります。
ライトコミュニティ名	変更要求用のコミュニティ名を入力します。初期設定のライトコミュニティ名は public です。設定後は本体を再起動する必要があります。
sysContact	MIB-II sysContact オブジェクトです。通常はネットワーク管理者のメールアドレスです。
sysName	MIB-II sysName オブジェクトです。通常は本機のホスト名かドメイン名です。
sysLocation	MIB-II sysLocation オブジェクトです。通常は本機のロケーション情報です。
HP Web Jetadmin 互換	HP Web Jetadmin からのアクセスを可能にするかどうかを設定します。設定後は本体を再起動する必要があります。
認証トラップ	認証トラップを使用するかどうかを設定します。オンにすると、不正なコミュニティ名を使用した読取りや書込みが試みられたときに、SNMP トラップが生成されます。トラップは次項目で指定するトラップアドレスに送信されます。設定後は本体を再起動する必要があります。
トラップコミュニティ名	本機がトラップを生成するときに使用する SNMP トラップコミュニティ名を入力します。
トラップ IP アドレス (IPv4)	トラップを受信する IPv4 アドレスを入力します。有効にするにはオンを選択してください。

項目	説明
トラップ IP アドレス (IPv6)	トラップを受信する IPv6 アドレスを入力します。有効にするにはオンを選択してください。
トラップ IPX アドレス	トラップを受信する IPX アドレスを入力します。有効にするにはオンを選択してください。
通知するエラー	通知を希望するエラーイベントを選択します。選択できるイベントは、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - 用紙切れ - トナー残量少 - トナー切れ - カバーオープン - 紙づまり - その他

詳細 > 管理 > SNMP > SNMPv3

このページで表示される項目は次のとおりです。これらの設定内容を変更した場合は、本体を再起動する必要があります。再起動方法は、9 ページの**基本 > 初期設定 > リセット**を参照してください。

項目	説明
SNMPv3	SNMP v3 プロトコルを使用するかどうかを設定します。使用する場合はオンを設定します。
認証通信	SNMP 通信を行なう際に、認証を行なうかどうかを設定します。
Hash	Hash アルゴリズムを選択します。認証通信をオンにした場合に表示します。
暗号通信	SNMP 通信を行なう際に、通信データを暗号化するかどうかを設定します。認証通信をオンにした場合表示します。
暗号化	暗号化アルゴリズムを選択します。暗号通信をオンにした場合に表示します。
ユーザ名	読み取り専用ユーザのユーザ名を入力します。
パスワード	読み取り専用ユーザのパスワードを入力します。
ユーザ名	読み書きユーザのユーザ名を入力します。
パスワード	読み書きユーザのパスワードを入力します。

詳細 > 管理 > LDAP

LDAP サーバ上のアドレス帳を外部のアドレス帳として参照し、ファクス番号とメールアドレスを宛先に指定することができます。

項目	説明
LDAP	LDAP を使用するかどうかを設定します。

項目	説明
LDAP サーバ名	サーバ名または IP アドレスを指定します。
LDAP ポート番号	LDAP が使用するポート番号を設定します。
検索のタイムアウト	検索がタイムアウトする時間を秒単位で指定します。
ログインユーザ名	ユーザ名を指定します。
ログインパスワード	パスワードを指定します。
検索結果の最大表示数	アドレス帳を検索した際に、表示する検索結果の最大数を指定します。実際に本体で表示できる件数は、機種によって異なります。
検索ベース	データベースのツリー構造で LDAP ディレクトリ検索の開始点を示す、ベースオブジェクトを指定します。
表示モード	名から表示するか、姓から表示するかを選択します。
LDAP 暗号方式	接続する LDAP サーバがサポートしているセキュリティに合わせて、タイプを選択してください。使用しない場合は オフ を選択します。
LDAPv3/TLS	explicit モードで通信を行っています。サーバが startTLS コマンドをサポートしている場合に選択します。通常の LDAP と同じポート（389）を利用します。
LDAP over SSL	implicit モードで通信を行っています。サーバが LDAP over SSL 用ポート（636）でサービスを行います。このポートを利用したすべての通信が暗号化されます。

詳細 > 管理 > 認証 > 基本

認証の設定をすると、あらかじめ設定したユーザのみにアクセスを許可することができます。さらに、ユーザごとに**一般ユーザ**か**管理者**のどちらかの権限を与えて区別できます。認証機能を使用するには、あらかじめアクセス可能なユーザを設定する必要があります。ユーザの設定方法は、14 ページの**基本 > セキュリティ > ユーザ管理**を参照してください。

項目	説明
認証	認証機能を使用するかどうかを指定します。使用しない場合は オフ を、使用する場合は次の2つから選択します。
ローカル認証	本体でユーザを登録し、本体と PC の 1 対 1 の認証を行います。
ネットワーク認証	本体とアクセスする PC が、Windows ドメインネットワークの管理下にあることが前提条件となります。機種によっては、本体に登録するユーザは、ドメインコントローラに登録されているユーザと同じでなければなりません。

項目	説明
ドメイン名	前項目でネットワーク認証を指定した場合、Windows ドメインネットワークのドメイン名を指定します。
ホスト名	前項目でネットワーク認証を指定した場合、Windows ドメインネットワークのドメインコントローラ名を指定します。
サーバタイプ	前項目でネットワーク認証を指定した場合、ドメインコントローラが対応する認証方式（サーバ OS）を指定します。ドメインコントローラが Windows NT であるときは NTLM を、Windows 2000 Server または Windows Server 2003 のときは Kerberos を選択します。
キーボードログイン	オプションの IC カード認証キット装着時、IC カードでのユーザ認証以外にも、本体操作パネルからのログイン認証を許可するか、禁止するかどうかを設定します。

注意：注意：サーバタイプが、[Kerberos(Win2000/2003)] の場合、ドメイン名は大文字で入力しないと認証できません。

認証を設定してアクセスすると、スタートページのみ表示されるようになります。さらに、画面左上にログインボタンが表示されますので、それをクリックしてログインします。管理者アカウントでログインすると、隠れていたページが表示され、すべてのページにアクセスできるようになります。一般ユーザアカウントでログインすると、基本ページの自分の設定内容画面と、自分の文書ボックスと共有の文書ボックスのページにアクセスができるようになります。

詳細 > 管理 > 認証 > ネットワークユーザ情報

ネットワーク接続での認証時に、ユーザ情報を取得する場合の設定を行います。

項目	説明
ネットワークユーザ情報の取得	ユーザ情報の取得を行う場合はオンに設定します。
LDAP サーバ名	サーバ名または IP アドレスを指定します。
LDAP ポート番号	LDAP が使用するポート番号を設定します。
検索のタイムアウト	検索がタイムアウトする時間を秒単位で指定します。
LDAP 暗号方式	接続する LDAP サーバがサポートしているセキュリティに合わせて、タイプを選択してください。使用しない場合はオフを選択します。
名前 1 (2)	LDAP サーバから、表示用のユーザ名を取得する際の LDAP アトリビュートを設定します。
メールアドレス	LDAP サーバから、メールアドレスを取得する際の LDAP アトリビュートを設定します。

詳細 > 管理 > 認証 > グループ認可設定

48 ページの詳細 > 管理 > 認証 > 基本で、ネットワーク認証を設定した場合ここでグループを登録し、**グループ情報**と**ジョブ認可設定**の項目を設定します。

グループアカウントは 20 件まで登録できます。なお、これとは別にデフォルトのグループアカウント (**その他**) が 1 つ設定されています。これは登録したグループアカウント以外のアクセスがあった場合に、この設定で処理を行います。

項目	説明
グループ認可	ジョブや権限について、グループごとに許可 / 禁止の設定を行う場合は オン に設定します。
登録グループ数	現在登録されているグループの数

新しいグループの追加

1. グループ認可設定をクリックして、**グループ認可設定**ページを開きます。
2. 追加をクリックして、グループ情報と各ジョブの許可 / 禁止の設定を行います。
3. 設定ボタンをクリックします。

グループの編集

1. グループ認可設定をクリックして、**グループ認可設定**ページを開きます。
2. 編集対象の**グループ ID** または**グループ名**をクリックして、グループ情報を編集します。
3. 設定ボタンをクリックします。

グループの削除

1. グループ認可設定をクリックして、**グループ認可設定**ページを開きます。
2. 目的のグループにチェックを入れます。最上部のチェックボックスにチェックを入れると、そのページに表示されているすべてのグループにチェックが入ります。
3. 削除をクリックします。**グループ認可設定・削除**ページが表示され、削除するグループを確認できます。
4. 削除するグループが正しければ、**削除**ボタンをクリックします。

詳細 > 管理 > IC カード設定

オプションの IC カードリーダーを本体に装着した場合に設定可能です。IC カード (FeliCa[®]) でログインを行うために、カードの読み込み設定を行います。

項目	説明
IC カード読み取りタイプ	IDM または FeliCa [®] のどちらかを選択します。

項目	説明
システムコード	IC カード読み取りタイプで、FeliCa [®] を選択した場合に設定が有効になります。本機で使用する FeliCa [®] カードに合わせて、読み込み設定を行います。
サービスコード	
使用するユーザブロック数	

詳細 > 管理 > 通知 / メンテナンス > メンテナンス通知

メンテナンス情報レポートに関する情報を定義します。

項目	説明
製品 ID	本機を識別できるような任意の文字列を入力します。
受取人アドレス	レポートを受け取る人のメールアドレスを入力します。受取人が複数いる場合は、メールアドレスを [;] (セミコロン) で区切って入力します。
件名	件名に表示する情報を指定します。次の % で始まる変数を入力すると、本機に設定されている各情報の値に変換され、件名に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> - %printer = モデル名 - %serial = シリアル番号 - %etheraddr = MAC アドレス - %equipid = 製品 ID
メール送信間隔	レポートメールの頻度とタイミングを次から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> - なし：レポートは送信されません。 - 月ごと：指定月の指定日に送信されます。 - 週ごと：毎週指定日に送信されます。 - 日ごと：毎日指定時に送信されます。 - 時間ごと：指定間隔で毎時送信されます。 31 日のように当月に指定日が存在しない場合は、月の最後の日が指定日として使用されます。
直ちに実行	送信ボタンをクリックすると、レポートメールを直ちに 1 回送信します。

詳細 > 管理 > 通知 / メンテナンス > 履歴送信

ジョブログレポートに関する情報を定義します。

項目	説明
受取人アドレス	レポートを受け取る人のメールアドレスを入力します。受取人が複数いる場合は、メールアドレスを [;] (セミコロン) で区切って入力します。

項目	説明
ジョブ履歴件名	件名に表示する情報を指定します。次の % で始まる変数を入力すると、本機に設定されている各情報の値に変換され、件名に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> - -%printer = モデル名 - -%serial = シリアル番号 - -%etheraddr = MAC アドレス
SSFC 履歴件名	オプションの IC カードリーダーを本体に装着した場合に設定可能です。 SSFC フォーマットの IC カードでログインしたユーザーのジョブ履歴を通知します。件名に表示する情報を指定します。次の % で始まる変数を入力すると、本機に設定されている各情報の値に変換され、件名に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> - -%printer = モデル名 - -%serial = シリアル番号 - -%etheraddr = MAC アドレス
自動送信	ジョブログレポートを送信するかを設定します。送信する場合はオンに設定します。
履歴数	送信時のジョブログ件数を、1 から 1500 まで設定できます。
直ちに実行	送信ボタンをクリックすると、ジョブログレポートを直ちに 1 回送信します。

詳細 > セキュリティ > セキュアプロトコル

SSL 暗号を使って、PC と本体との通信を暗号化することができます。これらの設定内容を変更した場合は、本体を再起動する必要があります。再起動方法は、9 ページの基本 > 初期設定 > リセットを参照してください。

項目	説明
SSL	SSL プロトコルを使用するかどうかを選択します。
サーバ機能時の設定 有効な暗号方式	使用する暗号アルゴリズムを選択します。複数選択することも可能です。
HTTP セキュリティ	セキュリティレベルを指定します。
セキュア (HTTPS)	すべての通信を暗号化します。この際、「https://…」で始まる URL のみがアクセス可能になりますので、通常の「http://…」で始まる URL が指定された場合、自動的に「https://…」へリダイレクトされます。
非セキュア (HTTPS と HTTP)	暗号通信と非暗号通信の両方をアクセス可能にします。「https://…」と「http://…」どちらの URL でもアクセスでき、前者の場合は暗号通信、後者は通常通信となります。
IPP セキュリティ	セキュリティレベルを指定します。

項目	説明
セキュア (IPP over SSL)	すべての通信を暗号化します。
非セキュア (IPP over SSL と IPP)	暗号通信と非暗号通信の両方をアクセス可能にします。
クライアント機能時の設定 有効な暗号方式	使用する暗号アルゴリズムを選択します。複数選択することも可能です。
証明書チェック	オンに設定すると、通信時にサーバ証明書に設定されている有効期限をチェックします。有効期限が切れている場合は、通信が失敗します。オフでは、有効期限のチェックを行いません。

注意：SSL をオンにし、HTTP セキュリティでセキュアに設定した場合、TWAIN ドライバから文書ボックスにアクセスできなくなります。

詳細 > セキュリティ > IEEE802.1x

IEEE802.1x のセキュリティプロトコルにより、クライアント証明書に基づいてセキュアなネットワークへログインできます。

項目	説明
IEEE802.1x	IEEE802.1x プロトコルを使用するかどうかを選択します。
認証方式	認証方式を EAP-TLS または PEAP (EAP-MS-CHAPv2) から選択します。
ログインユーザ名	アクセスするユーザ名を入力します。IEEE802.1x クライアント証明書が有効であることが必要です。
ログインパスワード	PEAP 方式でのパスワードを設定できます。(認証方式：PEAP [EAP-MS-CHAPv2] 選択時)
一般名	サーバの確認が必要な場合、サーバ証明書の一般名を指定します。(認証方式：PEAP [EAP-MS-CHAPv2] 選択時)
一般名称の一致規則	サーバ証明書の確認を行う際、一般名で指定した名称とサーバ証明書内の一般名を比較します。この際、完全に一致している必要があるのか、部分的に一致していれば良いかを選択します。(認証方式：PEAP [EAP-MS-CHAPv2] 選択時)
証明書の状態	証明書が有効であるか、無効であるか表示されます。

詳細 > セキュリティ > IPSec > 基本

IPSec プロトコルで通信を行う場合に、アクセスの制限を設定できます。

項目	説明
IPSec	IPSec プロトコルを有効（オン）にするか、無効（オフ）にするかを選択します。
制限	IPSec ではないパケットに対するデフォルトのポリシーを選択します。 54 ページの 詳細 > セキュリティ > IPSec > ルール 1~3 で説明するルールに設定したホスト、もしくは、ネットワーク以外とも通信を行う場合は 許可 を選択し、ルールに設定したホスト、もしくは、ネットワークとのみ通信を行う場合は、 拒否 を選択します。
認証通信方式	IKE phase1 で使用する認証方式を選択します。 共有キーとして文字列を設定して通信を行う場合は、 事前共有キー を選択し、下のテキストボックスに事前共有キーの文字列を入力します。 CA 発行のデバイス証明書や、ルート証明書を使用する場合は、 証明書 を選択してください。 有効期限チェック をオンに設定すると、通信時にサーバ証明書に設定されている有効期限をチェックします。有効期限が切れている場合は、通信が失敗します。オフでは、有効期限のチェックを行いません。 証明書 を選択すると、設定されていれば CA の内容、ルート 1 からルート 3 の内容が表示されます。CA ボタンや Root ボタンをクリックすると、CA 発行証明書やルート証明書について確認、インポート、削除の操作が行えます。
ルール 1 (~ 3)	設定されたルールの状態が、有効か無効かを表示します。有効と無効を切り替えるには、54 ページの 詳細 > セキュリティ > IPSec > ルール 1~3 を参照してください。

詳細 > セキュリティ > IPSec > ルール 1~3

IPSec プロトコルで通信を行う場合に使用するルールの選択や、ルールの内容を設定できます。

項目	説明
ルール	選択中の IPSec ポリシーのルールを、有効（オン）にするか無効（オフ）にするかを選択します。
鍵交換 (IKE phase1)	IKE phase1 では、接続相手との間に ISAKMP SA を生成し、安全な通信路を確保します。接続相手に合わせて、以下の項目を設定してください。

項目	説明
モード	Main Mode は、接続相手と交換するメッセージ数が多くなりますが、ID を保護できます。 Agressive Mode は、Main Mode より接続相手と交換するメッセージ数が少なくてすみませんが、ID の保護や、パラメータの折衝の範囲に制限があります。また、Agressive Mode を選択し、さらに認証方式に事前共有キーを選択した場合は、ルール設定の IP アドレスの指定には、ホストアドレスのみ設定できます。
Hash	Hash アルゴリズムを選択します。
暗号化	暗号化アルゴリズムを選択します。
Diffie-Hellman グループ	Diffie-Hellman 鍵共有アルゴリズムによって、保護されていないネットワークにある 2 つのホスト間において、安全に秘密鍵を共有することが出来ます。使用する Diffie-Hellman グループを選択します。
有効期間 (時間)	ISAKMP SA の有効期間を秒単位で設定します。
データ保護 (IKE phase2)	IKE phase2 では、IKE phase1 によって確立した SA を使用して、AH や ESP などの IPSec SA を確立します。接続相手に合わせて、以下の項目を設定してください。
プロトコル	プロトコルを、ESP または AH から選択してください。 ESP はパケット内容のプライバシーと完全性が守られます。次項目の Hash アルゴリズムと暗号化アルゴリズムを選択します。 AH は、暗号化チェックサムによってパケット内容の完全性が保護されます。次項目の Hash アルゴリズムを選択してください。
Hash	Hash アルゴリズムを選択します。
暗号	暗号化アルゴリズムを選択します。(プロトコルで ESP 選択時のみ。)
PFS	PFS を有効 (オン) にすることにより、ある鍵が解読されたとしてもその解読された鍵からは、後に生成された別の鍵を解読できないようにすることが出来ます。これによって安全性は高まりますが、鍵の生成処理が多くなるため負荷がかかります。
Diffie-Hellman グループ	Diffie-Hellman 鍵共有アルゴリズムによって、保護されていないネットワークにある 2 つのホスト間において、安全に秘密鍵を共有することが出来ます。使用する Diffie-Hellman グループを選択します。
有効期間測定	有効期間の測定を、時間のみで行うか、時間とデータサイズで行うかを設定します。

項目	説明
有効期間 (時間) / 有効期間 (データサイズ)	IPSec SA の有効期間を設定します。設定単位は有効期間測定の設定によって、時間かデータサイズかを選択できます。時間 & データサイズの方を選択した場合は、どちらか一方の有効期限が過ぎた場合に、現在使用している SA は無効になり、自動的に更新されます。
IP バージョン	接続先の IP バージョンを、IPv4 または IPv6 から選択してください。
IP アドレス (IPv4)	IPSec で接続するホスト、もしくはネットワークの IPv4 アドレスを入力してください。IPSec を適用する範囲を限定する場合は、確実に IP アドレスを指定してください。この設定が空欄の場合は、すべての IPv4 アドレスを対象として扱います。
IP アドレス (IPv6)	IPSec で接続するホスト、もしくはネットワークの IPv6 アドレスを入力してください。IPSec を適用する範囲を限定する場合は、確実に IP アドレスを指定してください。この設定が空欄の場合は、すべての IPv6 アドレスを対象として扱います。
サブネットマスク	IPv4 選択時は、IPSec で接続するホスト、またはネットワークのサブネットマスクを入力してください。この設定が空欄の場合は、ホストアドレスとして扱います。
プレフィックス長	IPv6 選択時は、IPSec で接続するホスト、またはネットワークのプレフィックス長を入力してください。この設定が空欄の場合は、ホストアドレスとして扱います。

4 トラブルシューティング

次の表には、COMMAND CENTER でトラブルが発生した場合の基本的な対処法をまとめています。

トラブル内容	確認事項	処理方法	参照ページ
COMMAND CENTER にアクセスできません。	本機の電源は入っていますか？	電源を入れてレディ状態になるまで待ってから、COMMAND CENTER にアクセスしてください。	使用説明書
	ネットワークケーブルは適切に接続されていますか？	ネットワークケーブルを正しく接続してください。	使用説明書
	本機のネットワーク設定は正しいですか？	操作パネルからネットワーク設定を実行してください。正しい設定については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。	-
	本機の IP アドレスは正しく入力されていますか？	正しい IP アドレスを入力してください。ネットワーク管理者に本機の IP アドレスを問い合わせてください。	-
	Web ブラウザで行った LAN 設定は正確ですか？	Web ブラウザで行った設定をチェックしてください。詳細は、Web ブラウザのヘルプ機能を参照してください。	-
	管理者によって IP フィルタ機能が設定されていますか？	承認済みの IP アドレスから COMMAND CENTER にアクセスしてください。	39
	詳細 > セキュリティ > セキュアプロトコルのページの HTTP セキュリティで、セキュア (HTTPS) に設定していますか？	HTTP セキュリティで、セキュア (HTTPS) に設定している場合、アクセスするときに、「https://…」からはじまる URL を指定します。「http://…」ではアクセスできません。	52
	Web ブラウザのバージョンは COMMAND CENTER に対応していますか？	COMMAND CENTER に対応するバージョンの Web ブラウザを使用してください。	1

トラブル内容	確認事項	処理方法	参照ページ
COMMAND CENTER の文字が正しく表示されない	Web ブラウザのバージョンは COMMAND CENTER に対応していますか？	COMMAND CENTER に対応するバージョンの Web ブラウザを使用してください。	1
	操作パネルの表示言語と同じ言語を選択していますか？	操作パネルの表示言語と同じ言語を選択してください。	9
他のページにアクセスできません。	管理者によってパスワードが設定されていますか？	パスワードを入力します。	12
設定を実行できません。	プリンタまたはスキャナは動作していますか？	操作が完了するまでお待ちください。	-
実行した設定が登録されません。	設定を実行した後に、 設定 ボタンをクリックしましたか？	設定を実行した後は 設定 ボタンをクリックして、他のページに移動するか、COMMAND CENTER ウィンドウを閉じます。	-
	設定を実行した後に、 再起動 ボタンをクリックしましたか？	本機を再起動してください。すべての設定が登録されます。	9
	本機のパネル上で、システムメニューの操作を同時に行っていないか？	システムメニューの操作が終了したあとに、COMMAND CENTER からの操作を行ってください。	-
管理者パスワードを忘れた	-	サービス担当者までご連絡ください。	-
ステータスインジケータにエラーや警告が表示される	画面にエラーが表示されていますか？	プリントシステムの使用説明書を参照して、表示されたメッセージに対応するトラブルシューティングの適切な手順にしたがってください。	使用説明書

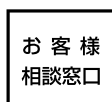
お客様相談窓口のご案内

京セラミタ製品についてのお問い合わせは、下記のナビダイヤルへご連絡ください。市内通話料金でご利用いただけます。

京セラ ミタ株式会社 京セラ ミタジャパン株式会社

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-9-15

<http://www.kyoceramita.co.jp>



0570-046562

受付時間

● 9:00~17:00

(但し、土曜日、日曜日及び祝日は除く)

市内通話料金でご利用いただけます。